

Title	内閣庫存書目について：中国版本学資料研究
Sub Title	The catalog of Chinese classic books in the Qing (清) Dynasty court cabinet : materials for the study of Chinese bibliography
Author	高橋, 智 (Takahashi, Satoshi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2011
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.46 (2011. ) ,p.269- 318
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20110000-0269">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20110000-0269</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 内閣庫存書目について

## —中国版本学資料研究—

高橋 智

第一章、清朝宮廷の藏書について

第二章、天祿琳琅

第三章、内閣大庫

第四章、内閣庫存書目・内閣庫存残本書目・内閣庫存

図籍

第五章、翻字『内閣庫存書目』（一部分）『内閣庫存残

本書目』（全）

第一章 清朝宮廷の藏書について

宣統帝溥儀（一九〇六～一九六七、一九二二退位）が馮玉祥

の政変によって、民国十三年（一九二四）十一月五日に紫禁城を去った。民国政府は直ちに故宮を封鎖して、清室善後委員会を組織し、故宮各殿の物品調査を開始した。その調査は、一九二四年から一九三〇年まで行われ、その点査の状況と報告は、『故宮物品点査報告』としてまとめられた。その点査の時、民国十五年（一九二六）三月一九日、毓慶宮で『諸位大人借去書籍字畫玩物等糙賬』を発見、また七月三十一日、『賞溥傑單』などのリストも発見され、溥儀が弟溥傑へ、民国十一年（一九二二）七月十三日から十二月十二日までにわたり、下賜した宝物の全貌が明らかになった。そこには二百種を上回る善本が含まれていた。このリストは民国十五年六月に刊行され、その後、

故宮博物院成立後、民国二十三年（一九三四）再び印に附された。その後、リストに載せられた善本の殆どが、溥儀によつて長春（当時の新京）の新宮に保管され、満洲国崩壊後、瀋陽に移され、後に北京へ戻り故宮博物院に収蔵された。既にその経過において、相当の書籍が失われ散乱したと伝えられる。市場に出回るものも少なからず、故宮博物院はこれらの価値を知らしめるべく、さらに民国三十五年（一九四六）十二月、このリストを出版した。

遼る民国十四年（一九二五）故宮博物院図書館が成立、陳垣（一八八〇～一九七二）を館長として、寿安宮を蔵書所とした。楊守敬（一八三九～一九一五）の觀海堂蔵書も民国十八年（一九二九）に収蔵された。そして、民国二十二年（一九三三）、日本軍の侵攻を目前にして重要図書一四一五箱が南に運ばれ、上海・南京と辿り、やがて四川等を転々として民国三十八年（一九四九）台中に運ばれることとなった。

この、溥儀賞溥傑、東北遺留の善本と、故宮南遷の善本が、清朝宮廷の蔵書では、種々の災厄を除けば、最も大きな流動であつたが、その目録上の記載と現状との正確な追跡は、未だに明瞭な結論を得ていない。新中国成立後は、全国の図書館支援

を目的として、故宮の善本の配置換えが行われ、全国十六の図書館に十五万冊を配つた。もはや、曾ての旧姿を再現することは困難と言わざるを得ない。明時代初期、永楽十八年（一四二〇）に完成したといわれる紫禁城の、九千ともいわれる房室に散在して数百年伝わつた蔵書の復元は、想像の域を出ない状況となつた。

清末の蔵書の様子が窺える『故宮物品点查報告』は、宮殿別に詳細であるため、極めて貴重な資料である。台北の故宮博物院文献館に現蔵される図書には、今日でも旧蔵宮殿の名前が記された点查時のメモが遺つていて、ややもすると紛失しそうな小紙であるが、原本と両輪の貴重な資料であるといえる。例えば、卷一乾清宮の第二十四号には、「図書集成 五百二十函」とあり、康熙朝に編纂、雍正朝に付印された銅活字印刷本『古今圖書集成』が見え、「共計五千十一冊、殿版、開花紙、帶木匣匣内有二夾板、第一函第一冊目錄中夾一紙條上書：光緒二十六年八月初四日、洋人拿去欽定圖書集成目錄一本三四函、第二百八十四函匣粘著未能開、視不知匣内究有幾本点查此書之時、每函編號登記歷五次而点畢、今將函數冊數併一号。」と注釈し、八国連軍の暴挙により略奪された記録も痛ましい。台湾に運ば

れた『図書集成』は『北平故宫博物院図書館南遷書籍清冊』（民国二十二年刊）によれば、文淵閣並びに皇極殿収蔵のものとともに乾清宮収蔵の五百二十函五千九百九十九冊があり、その流伝が同定できる。

こうした資料から知ることができる各殿の蔵書の特色などを大まかにまとめてみることにする。

先ず、清朝末期、様々な機構改革から、溥儀出宮以後、故宫博物院の成立後に整理された故宮蔵書（档案を除く）の目録などを概観すると、以下のようなになる。ただ、宮内の図書は、京師図書館の設立等とも相俟って、宣統頃に宮城を出て学部に移送されるなど、詳細な実状は把握できないが、複雑な経緯があるので、それらも加えて整理してみることとする。

清光緒三十一年（一九〇五）十一月清朝、学部設立

清宣統一年（一九〇九）京師図書館設立奏請、内閣大庫の図書

を図書館の基礎とするため学部へ移動、繆荃孫『清学部図書

館善本書目』（稿本・『古学彙刊』収載）編纂

民国一年（一九一二・大正一）八月京師図書館開館、江瀚館長、

教育部の管轄、広化寺に保管、江瀚『京師図書館善本簡明書

目』（稿本）編纂

民国四年（一九一五・大正四年）六月広化寺から安定門内、国

子監南学に移動

民国六年（一九一七・大正六年）一月方家胡同に開館、魯迅・

蔡元培・張宗祥等

民国十三年（一九二四・大正十三年）十一月五日溥儀出宮、清室

善後委員会故宮各殿の物品点査（一九三〇）

民国十四年（一九二五・大正十四）十月故宮博物院図書館成立

民国十六年（一九二七・昭和二）十月故宮博物院図書館公開、

傅增湘館長

民国十七年（一九二八・昭和三）六月南北統一、京師図書館、

国立北平図書館と改名、十二月中海居仁堂へ

民国十八年（一九二九・昭和四）六月『故宮善本書影初編』、

八月北海図書館と合併して国立北平図書館設立、楊守敬観海

堂蔵書が寿安宮に移蔵

民国十九年（一九三〇・昭和五）十一月故宮博物院図書館、文

淵閣四庫全書等点検終了、各宮殿の図書を寿安宮に集中

民国二十年（一九三一・昭和六）四月北平図書館北海新館に移

動 六月落成、蔡元培館長 八月『故宮方志目』（この年九・

一八滿州事変)

民国二十一年(一九三二・昭和七) 九月『故宮所藏觀海堂書目』

(この年三・一溥儀滿洲国執政)

民国二十二年(一九三三・昭和八) 一月故宮博物院図書館、重

要書籍南遷準備 三月『故宮所藏殿本書目』 六月『国立北

平図書館・故宮博物院図書館滿文書籍聯合目録』 八月『故

宮殿本書庫現存目』 十一月『重整内閣大庫殘本書影』 (この

年二月、文物の南遷開始)

民国二十三年(一九三四・昭和九) 北平図書館善本六万冊他重

要典籍、上海租界倉庫へ移送 一月『故宮善本書目』『故宮

普通書目』 九月『故宮已佚書籍書画目録四種』 (この年三・

一溥儀滿洲国皇帝)

民国三十年(一九四一・昭和十六) 北平図書館善本三批二万冊、

上海から米国国会図書館に寄託(袁同礼館長)

民国三十七年(一九四八・昭和二十三) 一月『故宮方志目録編』

十二月南遷図書台湾に移送開始(翌年二月まで三批)

一九五四年十一月北平図書館善本米国から台湾へ(蔣復璁館長)、

台北故宮博物院保管

一九六九年十二月台湾中央図書館、『北平図書館善本書目』刊

行

民国八年(一九一九)に上海の涵芬楼が、内府蔵の宋刊本『孟子趙岐注』(蜀大字本で現所在不明)を借りて影印(続古逸叢書)していることから、清末には内府の蔵書も一部明らかになっていたようであるが、初めて公開された内府本の姿は『故宮善本書影初編』に見られ、これは主に昭仁殿所蔵の宋元版四十一種類について、見本と解説を示したものであった。故宮の物品点査の最中であつた。民国二十二年の『重整内閣大庫殘本書影』とともに内府旧蔵書の貴重な書影である。『重整内閣大庫殘本書影』に含まれるものは、零本であつたため、京師図書館成立時、内閣大庫の蔵書が京師図書館に移される際に移管されず、故宮博物院内に残り、図書館ではなく、文献部に保管されてきたものようである。これらに収載の善本は、宋元版についてみると、阿部隆一『故宮博物院藏北平図書館宋金元版解題』(増訂中国訪書志・昭和五十八年・汲古書院)によれば、ほぼ台北の故宮博物院に現蔵されている。以上の表から、故宮の主な蔵書の流れはざっと次のように整理される。

○各殿所蔵本——一九二五故宫博物院―点查―一九三〇寿安宮に集中―一九三三上海に南遷―一九四八台北に移送

○觀海堂蔵本……一九二九寿安宮に保管―一九三三上海に南遷―一九四八台北に移送

○内閣大庫本——一九〇九、一部分学部へ―一九二二京師図書館―一九二八北平図書館―一九三四上海に移送、そのうち―三分の一、一九四一米国へ寄託―一九五四台北へ、―三分の二、北京へ、また一部分、故宮に残存……一九三〇寿安宮に集中―一九三三上海に南遷―一九四八台北に移送

楊守敬（一八三九―一九一五）の觀海堂蔵書については、拙著『室町時代古鈔本『論語集解』の研究』（平成二十年・汲古書院）に述べたが、民国四年（一九一五）民国政府が買い上げ、松坡図書館と故宮北の大高殿に分蔵され、後者は寿安宮に転蔵、松坡図書館のものは、今も北京図書館から中国国家図書館に受け継がれている。主要なものが寿安宮に移されたと言われるが、現国家図書館所蔵の楊氏本も実は相当に優れた日本古写本（古写経）・古刊本が含まれているが、松坡図書館本の楊氏旧蔵本は、書庫内の調査ができない限り、全貌はあきらかではない。寿安

宮のものは、民国二十一年（一九三二）の『故宮所蔵觀海堂書目』に、朝鮮本等を除いて著録され、その後台湾に渡り、阿部隆一『増訂中国訪書志』（昭和五十八年・汲古書院）に主要なもの の 解題 が 為 されて いる。

また、出版家で蔵書家の陶湘（一八七〇―一九四〇）が編纂した『故宮所蔵殿本書目』は明清の内府による出版物の目録、『故宮殿本書庫現存目録』は更に実録・聖訓・御製・欽定・校刊・史学・目録・類書……等に分類して内府の編刊書を整理したもので、内府本の意義を十全に説明するものであった。これらに所載の書籍も重複を避けて、一部台北に運ばれている。従って、本目録は、南遷が始まる前、民国十八年から二十二年の間に丁寧に書庫で調査した結果であった。傅增湘が寄せた題辞には「提囊載筆、犯風雪胃炎、歎徒歩走神武門、經西長街、坐寿安北殿中、手披目玩、凌晨而屆、日映而出、時而飢疲、或挾餅餌、与小史走、卒雜坐食飲、而不以為苦、蓋厲精粹掌、閱五六寒暑……」という。労苦を惜しまない徹底した調査であった。

地方志は当然ながら国家の威信により、清末までには内閣に無双の質量を誇っていた。しかし、これらの殆どは京師図書館設立とともに、北平図書館の架蔵に帰していた。民国二十年、

江瀚館長のもとに、故宮残存の地方志が整理され、『故宮方志目』として出版された。そして、この目録著録の重要なものは、北平図書館移蔵分の重要なものとともに、南遷し、台湾に渡っている。その後、南遷の遺留本と新たに発見されたものなどを併せて、再編集した方志目録が、民国三十七年の『故宮方志目統編』である。

更に時を同じくして、民国二十三年一月に、『故宮善本書目』（張允亮の序）『故宮普通書目』（江瀚の序）が出版された。善本書目は、昭仁殿の天祿琳琅現存書目、また天祿琳琅録外書目、養心殿の宛委別蔵目録に分かれ、これらに著録の原本は、既に前年、南遷してしまったため、綿密な調査を経ず、簿録をたよりに、著録・公刊したものであった。

そして、こうした専門書目（満文書目を含む）が編まれて、残った普通書庫の書目をまとめたのが、『故宮普通書目』であった。経・史・子・集・叢書の五庫に併せて、方略館、資政館・清史館の遺書とともに、九万九千四百冊を著録したもので、江瀚の督促により、公刊を急いだものであった。これらは現在の故宮博物院図書館に受け継がれているものである。このような図書館家の強力な指導により、また館員等の尽力によって、ほ

ぼ、清末以来、南遷前後の故宮蔵書の全貌は、一部を除いて明らかになることとなったのである。

以上が現存する民国当時の蔵書目録から知ることのできる蔵書流伝の概況である。さて、ここから遡って、清朝一代の皇室蔵書の様子を宮殿ごとに把握するならば、主なる蔵書処として挙げられる場所に、翰林院や皇史宬など宮外の書庫を除けば、内閣大庫・国史館・方志館・会典館・実録館等の文書を中心とした館、武英殿・文淵閣・乾清宮・昭仁殿・南書房・上書房・懋勤殿・摘藻堂・養心殿・毓慶宮・景陽宮等図書を中心とした宮殿があり、それぞれの特色と歴史を持っている。

## 第二章 天祿琳琅

乾清宮の東側にある昭仁殿に所蔵された特級善本を天祿琳琅と呼ぶ。嘉慶二年（一七九七）に乾清宮が火災となり、昭仁殿に及び、宋版は尽く灰燼に帰した。乾隆九年（一七七四）に各宮殿から集めた宋・元の善本は、『欽定天祿琳琅書目』（乾隆四十年刊）に収められ、火災後、再度蒐集して『欽定天祿琳琅書目後編』（嘉慶二年刊）を編纂した。前者は四百二十九種、後

者は六百五十九種であったが、前者の精善には遠く及ばない。いずれも、宋版・元版・明版と版種による分類目録になっている。この分類目録自体、画期的な編纂であったが、またこの目録の著録には蔵書印の説明が詳細であるのも特徴である。天禄琳琅の善本もその先を辿れば、どんな蔵書家の手を経た逸品であるかがわかるのである。揆叙・季振宜・毛晋・明内府・徐乾学・錢謙益・文徵明・項元汴など、明清の名だたる名家の旧蔵をたどることができるのである。天禄琳琅後編に著録された善本の配架図は民国二十二年（一九三三）に故宮博物院より影印出版されている。前層十五架、後層二十架、に各書の専用のスペース・箱が用意された。民国十四年（一九二五）二・三月の清室善後委員会点査時には、天禄琳琅旧蔵のものに宋版二十一部、元版六十二部、明版二百十九部、抄本九部があった。民国二十三年（一九三四）の『故宮善本書目』天禄琳琅現存書目には、宋版三十五部、影宋鈔本二部、遼版・影遼版各一部、元版六十二部、明版二百三部、明鈔本七部が著録され、嘉慶年間からみれば、宋版の約八割、その他の約三割は出宮していたことが知れる。その佚去したものの殆どが、溥儀の出宮に伴ったものであったことが想像される。

なお、昭仁殿の後室に宋版の五経を収めた五経萃室があったが、これも火災で焼失、乾隆四十八年にこの宋版五経を覆刻していたため、これをもって再建の配架としたのである。この殿版は後に更に覆刻を繰り返す。乾清宮は順治・康熙帝の居所で、「正大光明」の順治帝御筆扁額が掲げられるところ、実録や御製の殿版、前述のごとく『古今圖書集成』等が置かれていた。乾清宮の南にある乾清門の西側が南書房でその東側が上書房、前者は翰林が詰めて皇帝の質疑に応じたりしていたところで、後者は皇子の読書堂、それぞれ四部に亘る基本図書が集められていた。乾清宮西側、回廊のような建物に懋勤殿がある。ここも翰林が詰める皇帝の文房御用処で、各種の著名な図書や各宮殿の所蔵目録などが集中していた。乾清門の東、齋宮と奉先殿の間にある毓慶宮は、皇帝の読書処で、著名な『宛委別蔵』（四庫未収書）や『古今圖書集成』が置かれた。『宛委別蔵』は後に乾清宮西側の皇帝居住処・養心殿に移された。養心殿は西太后の垂簾聽政・宣統帝の退位が行われたところ。乾隆帝が「快雪時晴帖」（王羲之）「中秋帖」（王献之）「伯遠帖」（王珣）を収蔵した三希堂もここにある。乾清宮の北、坤寧宮の坤寧門を出た御花園の北西に摘藻堂がある。「四庫全書薈要」を収蔵した。



本書は円明園にも一部所蔵したが、咸豐十年（一八六〇）英法により焼かれた。北東には位育齋があり、数百部の古籍を収蔵した。南の午門を入って東には文淵閣・西には武英殿がある。

### 第三章 内閣大庫

文淵閣は『四庫全書』『古今圖書集成』を蔵し、武英殿は内府校刻処で、『四庫全書』編纂時の底本や殿版の集積処であったが、同治八年（一八六九）、光緒年間の火災でかつての資料は失われた。御花園の東、景陽宮、その北の御書房、更に北の古董房もそれぞれ皇帝用の図書が豊富で、宋・元・明の善本も含まれていた。これらは、任継愈主編『中国蔵書楼』（二〇〇一年・遼寧人民出版社）に詳しい解説がある。

故宮所蔵の宋・元版は、その版本審定も当時と現代では異なることもあり、所蔵処は昭仁殿だけではない。台北故宮博物院に運ばれた故宮旧蔵の宋・元版については前記、阿部隆一『増訂中国訪書志』（昭和五十八年・汲古書院）に詳細である。大陸に所蔵されるものについては全貌が明らかではない。民間に流出したもの、また、日本等に流出しているものについても、今後の研究調査を待たねばならない。

明正統六年（一四四一）華蓋殿大学士楊士奇等により編纂された『文淵閣書目』には、千字文による配架で、天地より往字まで二十号、大凡の四部分類にて七千二百五十六部が著録され、明前期の内府蔵書の様子が想像できる。楊士奇の「題本」によれば、永樂十九年（一四二二）南京より北遷した内府の図書は、紫禁城左順門北廊（清朝の協和門）に置かれ、後、その近辺に創建されたという（火災にて焼失した）文淵閣東閣に移し、「広運之宝」の大印を捺した。よってこれらの蔵書を『文淵閣書目』（『読書齋叢書』本）として整理したのであった。清朝に『四庫全書』を貯蔵した文淵閣は明代のものとは別であるが、ほぼ同じ場所に再建されたものである。『欽定四庫全書提要・文淵閣書目』によると、南京より北遷の後、礼部に命じて更に購書を続け、鈐版十三抄本十七、すなわち版本（宋元版）三割、抄本七割というもので、正統年間には完全無欠であったという。しかし、中期には次第に紛失流失が続き、万曆三十三年（一六〇五）に編纂された書目は『内閣蔵書目録』（『適園叢書』本）と

称し、二千四百四十七部、簡略な版本の著録もあり、分類も四部を基本としている。収載の豊富は『文淵閣書目』に及ばないが、編纂者が内閣勅房辨事大理寺左寺副孫能伝・中書舍人張萱等で、既にこの時内府の蔵書を内閣蔵書と呼んでいたことがわかる。もともと、大学士の直舎を内閣と言ったから、文淵閣を司る大学士が、現在の午門を入れて東側に坊閣を構えていたもので、明代の内府蔵書文淵閣と内閣は密接であった。文淵閣はその權威を高め、秘府と呼ばれるようになるが、嘉靖三十六年（一五五七）・万曆二十五年（一五九七）と火災にみまわれ、蔵書の一部は皇史宬（城外・今の南池子大街）や古今通集庫（東華門の南）に移されたが、再建修復を重ねるも、一六四四年、李自成の乱により大部分が焼失した。

ここに、清代、明文淵閣遺址に内閣大庫を造成して、明内府の遺留本を再整理して保存したのである。内閣大庫所蔵の禁裏書籍は、明末の大乱の燼余のもので、残本が殆どであるのは当然であった。しかし、明内閣以来の残本であるから、宋・元の管轄を経た残余も存在したわけで、その蔵書は大きな意義があった。また、皇史宬に移蔵した図書檔案は、災厄に遭わなかったこともあり、清朝になって、再び内閣に移されたものと考えら

れる。更に清朝の勅撰圖書の膨大な増量によって、各宮殿の蔵書も充実し、清初の著名な蔵書家の精品が入宮したことも重なって、清宮の蔵書は空前の隆盛を見せた。従って、清内閣の蔵書は宮内の総体ではなく、内閣大庫に所蔵された遺品を指し示すことになった。ただ、『四庫全書』・天祿琳琅が完成した乾隆時代には、蔵書の中心が皇帝居所に移り、内閣大庫は図籍・録冊を中心とした書庫に変わっていった。そして、檔案を除く内閣の蔵書は、清末、移送されて、京師図書館設立の際の母体となるに至った。

それ故に、内閣旧蔵の檔案の実態は民国時代になって明らかにされることとなるが、蔵書に関しては、京師図書館それを引き継ぐ北平図書館の書目等によって辿ることもできるが、蔵書の来源を明らかにするのは極めて困難な状況となっている。

因みに、内閣の蔵本を一部引き継いだ京師図書館では、準備期間の監督繆荃孫（一八五四～一九一九）による書目『清学部図書館善本書目』（『古学彙刊』民国一年上海国粹学報社に所収）を筆頭にして、初代館長江瀚の『京師図書館善本簡明書目』（稿本）、また館員王懋鎔所編の書目（未見）が存在した。民国五年（一九一六）、夏曾佑館長がこれらを整理して排印、『京師図

『書館善本書目』として出版した。なお、江瀚の書目を浄書・増加したものに京都大学人文科学研究所蔵の鈔本『京師図書館善本書目』がある。収載書は京大本が最も多く、他の繆本・江本・夏本は皆概ね一致している。ただ、斯道文庫所蔵の江本は江瀚の自筆訂正が甚だ多く、江瀚は民国二年（一九一三）二月に図書館から離職しているから、極めて初期の訂正稿本である。その後、北平図書館に発展すると、『北平図書館善本書目』が編まれ、これらの目録が吸収されて行く。しかし、北平図書館における善本の取捨は、京師図書館時代とはやや異なり、収載書目にも出入が多くなる。そして、これらが、戦火を逃れ南遷していくこととなり、旧来の内閣蔵書の姿はますますかき消されてゆくのである。そこで、江目の優れている点は、この歴史を遡り、どの本が内閣旧蔵であるかを「清内閣書」として明記してあることである。京大本もそれを引き継いでいる。京師図書館は当初、内閣書と帰安の姚氏咫進齋の蔵書を核としていたから、旧蔵の分別は大きな意味を持っていた。その後、民国十八年（一九二九）倉石武四郎・橋川時雄の尽力によって編纂された『旧京書影』（キャビネ判の印画紙を配布、二〇一一年人民文学出版社から橋本秀美北京大学教授の解説を附して影印さ

れた）には京師図書館所蔵の旧内閣書が多数含まれ、内閣書の旧影を見る最良の資料となった。従って、江目とともに、内閣から京師図書館、そして現在の中国国家図書館、台北故宮の所蔵へと変遷する中間地点での内閣蔵書の状況を知ることのできる貴重な著録資料であるといえよう。

そして、その中間をさらに遡り、清末の内閣書の実態を知ることができれば、ようやく分散した旧態に辿り着くわけであるが、その記録が次に示す『内閣庫存書目』の稿本として遺るので、おそらくは清末に編まれたものであろう。

#### 第四章 内閣庫存書目・内閣庫存残本書目・内閣庫存図籍

北京大学図書館の李盛鐸（一八五九～一九三四）旧蔵書のなかにこの三種の目録が存在することは、張升『明清宮廷蔵書研究』（二〇〇六年・商務印書館）に述べられている。その詳細は明らかにされていないが、なお中国国家図書館の普通書庫・科学院図書館にも同源と思われる伝鈔本が存在するという。しかし、李氏旧蔵本は、清劉啓瑞（一八七八～？）の編写と伝え

られ、劉氏の自署ある紙片を遺すことなどから、その伝えの信憑性は大きく、本目録の価値は甚大なものであることが知られるのである。というのも、劉啓瑞は清末に内閣を知悉した人で、「字翰臣、号は韓齋、光緒二十九年癸卯科の挙人。同三十年甲辰科の進士。江蘇宝応の人。内閣中書、内閣侍読等に出仕し、民国革命の後は官途から去った。今北京に静養中」（橋川時雄『中国文化界人物総鑑』民国二十九年）とされ、版本に精通し、流出した内閣大庫本を蔵書家に紹介していたことでも知られていたからである。民国初年に内閣の蔵書の大きな移動があったことから、光緒の末年に編纂された目録と思われるが、その精審な鑑定眼は随所にうかがわれるところである。

このうち、『図籍』は「内閣庫存図籍 劉啓瑞輯 稿本 一冊（李□1057）」で、毛装、十行の罫紙に書写、詔諭、御筆、碑版、図絵、輿図、輿図総類、雑存に分類され、また図には陵園、王府園などがあり、図絵類に「経版庫図」もある。輿図には各省・府・鎮の図が示される。また、『庫存書目』は、「内閣庫存書目 劉啓瑞輯 稿本一冊（李□1058）」完本、即ち全冊揃いの書目であり、毛装（26×16.5cm）、外題「内閣庫存書目」（本文同筆）十行の刷藍色罫紙（粗黒口双魚尾）に書写。一筆。

内匡（183×113cm・71枚）「木犀軒蔵書」「李印盛鐸」「木犀印記を捺す。殿版や勅撰本の稿本、また明代からの経廠本などが主で、宋・元の旧版は少ない。最も豊富に宋・元のものを伝えるのが『残本書目』で、「内閣庫存残本書目 劉啓瑞輯 稿本 一冊（李□1059）」毛装（26×16cm）、每半紙十行藍色印刷罫紙（183×113cm・版心粗黒口・双黒魚尾・60枚）「木犀軒蔵書」「李印盛鐸」「木犀」印記あり。全冊一筆。南京の明宮府伝来の残闕こそが内閣書の粹であることを物語っている。ここに翻字するのは、『庫存書目』の主たる宋・元旧刻と、『残本書目』の総てである。この『残本書目』と移動後の江瀚手写目録とを較べても、出入は多く、移動の実態を安易に結論づけることはできないが、劉氏編纂以前にも或いは内閣書の移動が逐次行われていたことも想像される。ともあれ、本書が清末に劉氏が確認した庫中の現存本目録であることは疑うべからざる事実であって、本書の綿密な著録の清查は今後の内閣書の復元研究に大いに貢献するであろうことは間違いない。翻字は写本に忠実に行ったが、存缺の著録の方法でやや不統一のところがあがるが、誤解を招くことはない。そのままだしている。北京大学図書館の沈乃文氏のご高配により完写することができた

ものである。

史類

詔令 十五種四百七十七部一万四千八百零九本

賜諸番詔勅一部一本 明洪武年刊本

祖訓錄一部一本 明洪武六年御纂鈔本

明御製大誥三部每部一本 明洪武年刊本

統大誥三部每部一本 同上

大誥武臣一部一本 同上

等明初刊本他

正史 十一種十五部三百一十八本

明史稿一部七十八本三百六十卷 王鴻緒奉勅撰 進呈写本

他万曆監本

編年 五種五部二十一本

紀事本末 二種二部五十八本

伝記 五種十一部八百三十一本

載記 十二種三十部一百二本

鄭氏旌義編一部一本三卷 鄭氏自編 明洪武刊本

史鈔 二種二部五本

歷代十八史史略一部四本八卷 元曾先之編 至正二年刊本

元史略一部一本四卷 明梁寅編 洪武十九年刊本

第五卷 『内閣庫存殘本書目』(全)

内閣庫存書目 劉啓瑞輯 稿本一冊(李□1038)

經類

正經正注列朝經注經說 四十種八十九部一千二百五十本

御纂周易折中 七部每部十本二十卷 康熙五十四年李光地等奉

勅撰 殿本

欽定書經伝説彙纂 二部每部二十四本二十四卷 康熙六十年王

項齡等奉勅撰 雍正八年御製序文刊行殿本

等勅撰本稿本・進呈本・殿本

樂書一部三十本二百卷 宋刊本

讀孟子叢說一部二本二卷 元許謙撰 元刊本

学庸集說啓蒙一部一本 元景星撰 元刊本

書集伝二部每部二本 宋蔡沈撰 元刊本

周易爻象說一部二本 宋俞琰撰 宋刊本

等宋元刊本

奏議 三種四部十本

政府奏議 一部二本二卷 宋范仲淹撰 元刻單行本

地理 九百九十八種一千五百二十部九千六百二十二本

龍虎山志二部 宋元明善修 延祐元年刊本

政書 三十三種百六十四部三千六百四十二本

通典詳節二部每部四本 元刻本

### 子類

儒家 十種十四部百二十八本

新序二部每部三本十卷 漢劉向撰 經廠本

說苑一部五本二十本 漢劉向撰 經廠本

近思錄一部四本十四卷 宋朱熹呂祖謙同撰 經廠本

張子全書 一部六本十四卷附錄一卷 宋張載著朱熹注 經廠本

張子全書 一部四本 經廠本

### 等經廠本

天文算法 五種十九部六十二本

御製歷象考成一部十三本上編十六卷下編一卷 康熙十三年校刊

雜家 八種一百四十七部

為善陰隲二部每部一本 明永樂十七年御製勅刊

積道家 十八種二十二部六十五本

黃檗禪師伝心法要一部 一本 唐裴休輯 明永樂十二年刊本

仏日圓昭大師語録一部一本 元至正刊

雲門三王頌古一部 一本 宋沙門悟本撰 紹興癸丑年刊本

### 集類

別集 五十三種百七十二部八百五十九本

東坡和陶詩一部一本四卷 宋蘇軾撰 宋刊

劉靜修全集一部三本二十二卷 元劉因撰 元刊

等国朝文集為中心

總集 一種一部二十一本

文章類題一部二十一本四十卷 明慶靖王編輯 刊本

全一千二百二十一種二千六百四十四部三萬二千一百六十七本

內閣庫存殘本書目 劉啓瑞輯 稿本 一冊 (李□1059)

### 經類

周易會通十四卷 元董真卿撰 存卷一、十 明洪武間刊本 存

三本

周易伝義大全 明永樂中勅撰 存卷四、十四 寫本 存五本

又 存卷九、二十四 刻本 存五本

周易殘缺雜本 存十六本

以上易經 四種 共存二十九本

日講書經解義十三卷 存卷七、十三 殿本 存七冊

尚書注疏二十卷 唐孔穎達撰 存卷二、十、十六、二十 旧刊

本 十三行行二十八字 存二本

書經諺解五卷 不詳撰人 存卷二、五 刻本 存四本

謹案此書與詩經諺解當同為元時官撰直錄書詩白文每字积以蒙

古字當是教習漢文之課本

書經義無卷數 不詳撰人 抄本 存二本

謹案四庫書目有書義矜式六卷元王充耘撰不知即此書否

書經 殘缺雜本 存十六本

以上書經 五種 共存

欽定詩經傳說彙纂二十二卷 存卷二、十四、十六、二十二 存

二十二本

詩伝通釈二十卷 元劉瑾撰 存卷一、七、十一、十三、十七、

二十 原刊本 存六本

謹案此書□為大全所采録惟原刻稀如麟鳳甚足寶貴

詩經諺解二十卷 不詳撰人 存卷一、六、十四、二十 存五本

詩伝通釈 劉瑾通釈 存卷一、八、十五 存二本

又 存五本

湊本不全存首、卷二、四、十一、十九、二十

又 存五本

大小本湊全内複卷十、十一、十四、十六

又 欠卷三 存四本

詩集伝 存柏舟至裳一者華前後缺

詩伝大全 存卷一、三、十、十七、十三卷複

又 存卷一、五、十二、十七 存二本

詩朱氏伝 存卷九、十二、十八、二十 存二本

詩経殘缺雜本 存十六本

以上詩経 七種 共存七十四本

周礼正義四十二卷 唐賈公彦撰 缺目錄 前三頁 殿版 存十

六本

周礼注疏四十二卷 存卷二、十八 坊本

周礼会注不詳卷數 不詳撰人 存卷七、十三 写本 存三本

謹案經義考有李如圭著周礼会注十五卷不知即此否

周礼注疏刪翼三十卷 明王志長撰 存卷十三、三十 明嘉靖乙

卯刻本 存七本

又 存卷一、四、九、二十六 存十二本

周礼集注無卷數 明□喬新撰 缺表官 嘉靖七年楮選刊本 存

三本

周礼図稿本 勅撰 三礼館原稿本 存四本

謹案此図応在周官義疏稿本之後

以上周礼六種共存五十本

儀礼注疏十七卷 唐賈公彥撰 明李元陽刻本 缺卷三、六、八

十三 存九本

儀礼節略二十卷 存卷二、三、九、十、十三 存六本

儀礼節略二十卷 国朝朱軾撰 存卷三、十一 存二本

儀礼経伝通解二十七卷 宋朱子撰 刻本 存卷二、二十七 存

十三本

欽定儀礼義疏稿本 存四十二本

欽定儀礼義疏副本四十八卷 存卷一、十五、十七、二十二、又

卷二十六、二十八、三十、三十八、又卷四十一、四十八、又

缺礼節図一本 存三十四本

儀礼十七卷 従永楽大典抄出之底本 缺卷五、七 存十一本

謹案此書未知即李如圭集积十七卷本否原書従永楽大典抄出每

段抄至集积积曰云々而止依提要原抄缺郷射大射二篇今所缺適

合当是完書

説礼通考百二十卷 国朝徐乾学撰 存卷四、百二十 家刻本

存二十七本

経礼補逸九卷 元汪克寛撰 存卷一、五 明刻本 存二本

以上儀礼八種共存百六十七本

欽定礼記義疏稿本八十二卷 缺図一本 存八十一本

欽定礼記義疏副本 缺卷六十六、六十七、七十三 有図一本

存

七十九本

礼記集注三十卷 存卷五、三十 明徐師曾撰 存六本

礼記詳説 未詳撰人 存卷三、五、七、四十一、四十四、五十

一、五十三、六十二、又一本無卷数 写本 存五十七本

謹案此書較集説尤詳

礼記纂言三十六卷 元呉澄撰 存卷二、三十六 存九本

礼記説義纂訂 国朝楊梧撰 存卷三、五、十、二十四 終喪服

四制 存十一本

礼記大全三十卷 明永楽中勅撰 存卷二、三十 明刻大字本

存八本

又 存七本

礼記集意 明張養浩撰 缺卷未查 存三十五本

又 缺卷未查 存二十六本



礼記解詁 十三經解詁之一種 明陳深刊 存六本

以上礼記八種共存三百二十五本

讀礼記略 國朝朱朝瑛撰 存礼記一冊儀礼一冊 抄本 存二本

謹案儀礼冊內有藍筆評語深詆此

礼書百五十卷 元陳祥道撰 存卷一、十六、二十八、六十四、

百十八、百二十九、又重二冊卷六、十六、二十八、三十六 元

刻二十六行本 存九本

謹案首本後有籤題洪武二十八年五月二十五日長史王發行礼部

領到一部十五本

三礼編詁二十六卷 明鄧元錫撰 存卷一、三、六、八、十、十

四、十八、二十六 万曆刊本 存九本

謹案此書有孫承澤印

以上三礼三種共存二十本

樂書 存十二本

以上樂類一種共存十二本

春秋大全七十卷 明永樂中勅撰 存卷一、十六、三十七 存十

一本

京本春秋左傳 無注 存卷六、七、十 存四本

春秋伝義 張爾岐撰 缺第十二卷 稿本 存十四本

春秋胡伝三十卷 宋胡安國撰 存隱上中下卷僖上下卷文上下卷

春秋殘缺雜本 存十六本

三伝弁疑二十卷 元程瑞學撰 存卷六、十四 存六本

以上春秋六種共存五十四本

日講四書解義二十六卷 存卷一、五、七、十五、十七、十九、

二十、二十六

論語集注大全二十卷 明永樂中勅撰 存卷三、二十 明刻大字

本 存七卷

又 存卷六、七、十三、二十 存四本

又 存卷三、十、十三、二十 存六本

又 存卷三、二十 存七本

孟子集注大全 明永樂中勅撰 存卷三、十 存四本

孟子集說啓蒙 存一本

四書集義精要二十八卷 元劉因撰 存卷一、二、五、八、十一

、十九、二十二、二十八 元刊本 存九本

謹案提要言原三十卷今佚二卷不知所佚卷次 又案此書內有夾

條言此書劉夢吉所著或當存之疑為修四庫采進本

四書章句或問 原王侗錄 僅存學庸 元至正刊本 存一本

以上四書六種共存五十一本

通志堂經解 国朝納蘭性德輯刻 原刻本 存四百十八本

易經全百三十一本 詩經全三十五本 書經存四十九本（林氏

尚書解十六以下全闕、又缺句解十二・三卷、又缺纂述第二・三

卷、又缺管見下卷、又缺洪範一卷）周札訂義十三本 攷工

記三本 儀禮集說七本 禮記集說二十九本 春秋九十九本

論語六本 孟子七本 四書三十八本

又 詩經解全部 存四十本

以上諸經總解一種共存四百五十七本

埤雅二十卷 宋陸佃撰 存卷首、六、十四、二十 明刻本 內

卷六抄本 存二本

又 存卷一、五、十一、二十 存三本

六書故三十四卷 宋戴侗撰 存卷一、四、十四、二十一、二十

四、二十七、二十八、三十一、三十三 明刻本 存八本

又 存卷六、十四、十五、十七、十八、二十、二十一、二十三、

二十五、二十六

以上小学三種共存十九本

廣韻十卷 宋 撰 存卷四、五 刻本 存一本

礼部韻略五卷 宋毛居正撰 小字本 存卷一、五、又卷二複

謹案書大小湊配故不入全書

又 大字本 存卷二、五 存四本

五音集韻十五卷 金韓道昭撰 泰和刻存卷十、十二、己丑刻存

卷一、三、五、九、崇慶刻存卷一、三 三種刻本 存四本

以上韻書三種共存十三本

總共經部十三類六十一種共存一千三百零二本

### 史類

史記百三十漢 漢司馬遷撰 存卷七、十七、三十一、三十八、

七十七、八十九、百二十三、百三十 元刊本 綿紙印 存五

本

又 存三本

又 存卷一、十九、二十三、百三十 監本 存二十三本

又 存卷七十五、八十一、八十八、百三、百十六、百二十六

監本 存五本

漢書一百二十卷 漢班固撰 存志卷四十一下、七中之下又八

宋刻九行本 存三本

又 存卷十六、二十、二十四、二十五、九十四、九十五 九行

本 存四本

又 存卷一、五、七、十二、二十七、三十、三十六、四十三、

六十、六十四、六十八、八十二、九十四、九十九、百 大德

正統至大三朝本 存十三本

又 存卷一〇十二、二十七、三十一〇三十五、四十四〇四十九、

六十六〇七十一、九十〇九十四、九十三〇百 同上複本 存九

本

又 存卷二十七〇三十、六十〇九十、九十七〇百 大徳本 存

五本

又 存卷一〇五、十三〇十九、三十七〇四十三、五十〇八十四、

九十〇百、又複本六十六〇七十一 正徳本

又 存卷一〇二十八、五十五〇一百 監本 存二十五本

又 存卷九十三〇九十六上、二十四〇二十六、又一〇十二、九

十九〇一百、三十一〇三十五、九十〇九十四、又二十七、四

十三〇五十、六十一〇六十七 存十本

後漢書 存伝卷一〇十一、十四〇二十七、三十下〇三十八、四

十八〇四十九、五十五〇八十、又志卷十一〇三十二、複十四

〇十六、二十五〇三十四、四十三〇五十四、六十三〇六十五、

七十四〇七十九

又 存紀卷一〇三、伝卷七〇八、十六〇十九、二十五〇三十一、

三十九〇四十一、四十五〇五十一、五十八〇六十四、六十七

〇八十、又志卷六〇九、十三〇三十、複志卷十九〇二十六、

伝卷六十七〇六十八 存二十七本

又 存卷一〇四、十一〇十七、三十〇三十五、四十六〇五十一、

五十九〇六十一、八十二〇九十 志卷十一〇十九 大徳寧国

路儒字刊本 存八本

又 存志卷十一〇二十二、列伝卷十四〇十六、二十五〇二十九、

三十二〇三十四、四十三〇五十四、六十三〇六十五、七十四

〇七十九 宋大字刻本 存十四本

又 存卷十一〇二十五、二十三〇三十、三十八〇四十三、七十

〇七十四、志卷二十四〇三十 大徳本 存七本

又 存紀卷四〇九、志卷一〇三、十五〇二十、伝卷十二〇二十

一、三十九〇四十二、四十七〇四十九、五十二〇五十四、五

十八〇六十、六十九〇七十、七十七〇七十八 同上刊本 存

十四本

又 存卷一〇二、八〇十五、二十一〇三十、三十七〇四十三、

四十五〇五十二、五十九〇六十三、七十〇七十五、八十一〇

八十五、志卷十一〇十二(?) 正統本 存十二本

又 存卷一〇四、十一〇十五、三十一〇三十六、五十九〇六十

三、志卷一〇七、十七〇三十、又志卷一 正統本 存八本

又 存卷一〇十五、二十一〇八十六、又志卷一〇三十、内複第

七十五、又律歷志一卷 正統本 存十九本

又 缺卷四十三、四十八、七十三、八十五 監本 存二十六本

又 存卷四、八、五十八、五十九、七十四、七十六、八十一、

八十二、八十六、八十七 九行本 存九本

又 缺卷二十二、四十、五十四、五十七、八十六、九十二、百

九、百十 監本 存二十三本

又 監本 存十六本

又 存卷一、二、八十一、八十五、二十七、三十、八、十、八

十一、八十七、五十九、六十三、志卷二十、三十 又志卷二

十、三十 存二十本

又 存卷一、四、十一、十五、十七、二十二、二十三、二十七、

二十八、三十、五十二、五十七、十一、十七、十八、二十五、

三十八、四十二、四十八、五十二、四十二、四十六、三十一

、三十六、三十一、三十四、五十九、六十三、七十、七十四、

志卷一、八、十七、二十五、二十四、三十、又志卷一、七、

二十一、三十、又志卷一、四十二、四十七 存二十本

晉書百三十卷 存卷一、十二、十七、二十八、三十八、四十八、

五十三、六十八、七十九、八十七、九十二、九十八、百四、

百三十、又音卷十一、二十 校本 存二十本

又 存目音卷一、十四、十六、四十八、五十四、六十、六十九

、七十八、八十五、百 十行本 存十六本

又 存紀卷一、六、四十七、五十三、六十、六十四、七十、又

紀卷一、五、十四、二十六 旧刻本 存六本

又 缺卷七十五、七十八、九十五、九十七、百一、百五、百十

、百十八 監本 存二十五本

又 缺卷十、二十四、二十八、三十、又缺百二十六以下各卷

存

二十三本

又 缺卷六、十一、二十八、五十九、六十三、六十六、七十、

七十二、八十八、九十 監本 存二十四本

又 存卷十一、十三、十八、二十六、四十六、六十一、七十、

八十一、九十七、百、百十八、百三十、又音卷二、添卷五

、十、三十一、四十五、又八十二、八十四、百六、百十二

監

本 存二十一本

又 存二本

宋書一百卷 梁沈約撰 缺目錄兩頁 監本万曆二十二年刻本

存二十四本

又 存卷一～三十九、監本万曆二十二年刻本 存十一本

存三十三本

又 存本紀卷二～十、志卷一、二、四～十八、二十、二十一、

又 存卷十～十四、二十四～二十七、二十八～三十二 同上重

二十九、卷五、六、七、八、又卷十三～十四、十七～十八、

複 存三本

二十～二十一、列伝卷一～八、二十六、表卷三十二、三十五

南齊書五十九卷 梁蕭子顯撰 存卷一～六、十二～五十九 監

～五十八、又十二～二十五 九行本 存十四本

本 白紙印 存九本

魏書一百四十卷 北齊魏收撰 存卷一～十四、十九下、表卷六

又 存卷七～二十一、四十八～五十三 監本 存四本

十二、七十二～九十二、百十三、百十四 監本 存十八本

北齊書五十卷 唐李百藥撰 存伝卷二十七～四十二 宋九行本

又 存卷四十七～九十四 監本 存十本

存五本

又 存卷四～四十四 監本 存八本

又 存二本

又 存卷一～三、三十六、志卷百十四 監本 存八本

梁書五十六卷 唐姚思廉撰 存卷三十八～四十八 監本 白紙

又 存本紀全列伝卷一、二、七～二十二、二十九～四十六、五

印 存二本

十一～五十五、六十九～七十四、八十一～九十二、志全二十

又 存本紀卷一～六、十一～二十一、二十六～四十一、四十六

卷 監本 白紙印 存二十四本

～四十八、五十一～五十四 九行本 存十四本

又 存卷四～五十八、六十八～九十二 監本 存十七本

周書五十卷 唐令孤德棻撰 存卷一～五 監本 白紙印 存一

又 存志卷六、九、十、十三、十四、十七、十八 宋九行本

本

晉

又 監本 存四本

府藏書 存五本

陳書三十六卷 唐姚思廉撰 存卷五～二十六 監本 存三本

又 存本紀全志卷五上、八、八十～八十二、伝卷一～三十五、

又 存卷二十一～三十 宋九行本 存三本

四十二～五十八、六十～六十三、六十六、六十七 宋九行本

隋書八十五卷 唐魏徵等撰 存卷四～十一、十八、十九、四十

八〇五十四 監本 白紙印 存四本

又 存卷四〇八、一五〇十七、二〇〇二十二、二〇七〇四十一、

四十八〇六十、六十六〇七十、七十六〇八十五 監本 存十

二本

又 存卷二十一〇二十四、四十〇五十七、七十二〇八十五 九

行本 天聖二年刻 存五本

又 存志卷三〇五、八〇十一、十四〇二十二、伝卷一〇十五、

二十五〇二十八 十行本 存十二本

又 存卷一〇五、志卷十九〇二十四、三十、伝卷一〇十一、十

五〇十八、二十三〇三十九 十行本 晋府藏 存十五本

南史八十卷 等李延寿撰 存卷一〇四十 監本存十本

又 存本紀卷四〇七、列伝卷一〇五、二十八〇三十、三十四〇

五十一、五十八〇六十 十行本 存十二本

又 存伝卷十九〇二十三、三十四〇三十七、四十二〇六十六

十

行本 存八本

又 存本紀全列伝卷一〇八、十七〇四十四、五十五〇七十 十

行本 存九本

又 存本紀全伝卷一〇八、二十七〇三十六、五十五〇七十 十

行本 存六本

又 存本紀卷二〇三、卷六〇七、列伝卷五〇十、十二〇十六、

三十四〇三十六、五十二〇六十 十行本 存九本

又 存卷一〇六、二十七〇三十三、六十一〇七十 十行本 存

五本

又 存卷五十六〇五十九、六十五〇六十八 監本 存二本

又 存卷一〇六、二十七〇四十三、七十一〇八十、又一〇五、

又一〇三、十四、三十七〇四十二、五十二〇八十五 存六本

又 存本紀卷一〇十二、列伝卷一〇二十九、五十〇七十四 十

行本 存九本

又 存本紀卷一〇十二、列伝卷八〇四十九、六十六〇八十二〇

八十八 十行本 存十本

又 存本紀卷一〇十二、列伝卷十二〇二十五、四十九〇五十一、

五十七〇五十九、又本紀卷三〇五、九〇十、又列伝卷十九〇

二十 十行本 存十三本

又 存本紀卷一〇二、五〇六、九〇十二、列伝卷一〇二、五〇

八、十一〇二十、二十九〇三十七、四十四〇五十二、五十六

〇志卷五十九、六十二〇七十一、七十四〇七十八、八十三〇

八十四、八十七〇八十八 十行本 存三十二本

又 存本紀卷九〜十、列伝卷五〜六、二十三〜二十四、四十〜四十三、四十六〜四十八、六十九〜七十、七十四〜七十六、七十九〜八十、八十三〜八十四

又 存本紀卷二〜五、列伝卷十三〜十四、二十六〜二十八、三十五〜八十五

謹案以上七部同一刻本裝背大小不同故未湊記

新唐書二百二十五卷 宋歐陽脩・宋祁同撰 十行小字本 存二

十四本

又 存本紀卷一〜十、志卷一〜三十七、表卷十下、十四上〜十五下

五下 伝卷十七〜三十四、八十一〜百四十上、百四十五〜百

四十七 元官牘紙背印十四行本 存二十二本

又 存卷四十二〜百二十五、又釈音一卷 監本 存四十一本

又 存本紀卷十一〜三十四、四十二〜四十七、五十一〜七十一

下、七十二下〜七十四上、八十二〜八十七、九十一〜九十七、

一百〜一百十二、一百二十〜一百三十、一百三十三〜一百五

十二、一百六十三、一百六十四、一百六十七〜一百八十、一

百九十、一百九十二、一百九十八〜二百零二、二百零八〜二

百十四、二百十六〜二百二十一、二百二十三〜卷末、又釈音

卷九〜十五

又 存志卷一〜十四、十九〜二十七、四十七〜五十、伝卷七〜

五十一、六十八〜七十四、八十三〜九十五、七十三〜七十九、

百十七〜百二十二、百二十七〜百三十七、百四十〜百四十六、

百四十九〜百五十、表卷十一〜十三 十行小字本 存二十二

本

又 存目錄全、本紀卷一〜七、志卷十一〜二十、四十三〜五十、

表卷八〜十三下、列伝卷十七〜二十一、四十七〜五十、六十

五〜七十、七十六〜九十、九十六〜一百零一、一百零七〜一

百三十、一百三十五〜一百三十九、一百四十七〜一百四十九、

釈音 十行本 存四十九本

又 存志卷五〜十三上、十六〜三十九上、表卷四〜九、十下〜

十五下、列伝卷二十三〜三十、三十五〜四十七、五十一〜志

五十七、六十三〜六十七、八十七〜九十四、一百零八〜一百

二十、一百二十四〜一百二十五、一百二十九〜一百四十六下、

一百五十五上、下、釈音 十行本 存三十一本

又 存卷四十一〜六十一 監本 存五本

又 存卷三〜六、五十〜六十三、七十一〜七十二中、一百二十

六〜一百三十一、一百九十二〜二百二十五、音一卷 監本

存

十七本

又 存七本

新五代史記七十五卷 宋歐陽脩撰 存卷九、十七、四十二、四

十九、五十七、六十六 存四本

又 存卷十五、二十二、二十五、四十、四十八、五十四、七十

、七十四 監本 存四本

又 存卷九、十六、五十七、六十 十行本 存二本

又 存卷十一、二十九、五十一、五十八、六十四、七十四、又

十二、二十二、二十二、二十八 存六本

又 存卷一、十七、六十一、七十四、又十五、二十二、二十五

、四十、四十八、五十四、七十、七十四 存八本

又 存目錄、卷十三、二十八、三十五、五十五、二百零五、二

百十八、二百三十三、二百四十一、二百四十六、二百四十九、

二百五十、二百五十五、二百六十一、二百六十五、二百七十

、二百七十五、二百八十七、三百零二、三百零九、三百二十

五、四百三十二、四百三十七 存三十六本

又 存卷七十三、七十六、八十三、八十四、八十九、九十九、

一百五十八、一百七十六、一百八十一、一百八十四、一百九

十、一百九十四、二百零五、二百二十八、又卷二百二十五、

二百二十六、二百三十一、二百三十二、三百二十、三百二十

五、三百七十八、四百 監本白紙印 存二十一本

又 存本紀卷十九、二十二、四百四十三、四十四、志卷四 又

卷六、七、十七、二十、二十八、二十九、三十七、三十九、

五十六、五十七、六十三、六十五、七十四、七十六、七十九

、八十、九十、九十七、一百、一百零三、一百零八、一百零

九、一百十三、僅數頁、百二十三、百二十六、百二十八、百三

十、百三十一、百三十四、百三十六、表卷六、又卷八、十二

、十三、又二十七、又卷三十、佗卷二十二、二十三、卷二十

六、僅數頁、二十八、三十二、三十三、三十六、三十八、三十

八、零存數頁、五十、五十一、六十、六十一、六十四、六十七、

七十、七十一、七十八、七十九、九十二、九十三、九十六、僅

數頁、九十七、百零三、百零七、百八、百十一、百十二、百

十七、百十八、百四十八、百四十九、百五十一、百五十二、

百五十八、百六十三、百六十八、百七十、百八十八、百八

九、二百、二百零四、二百零九、二百十二、二百九未完、二

百二十、二百二十一未完 元刻 十行本郭成裝背 晉府書

存六十六本

又 存卷二十三、二十九、又三十六 十行本 存三本



- 又 存卷二百三十三～二百四十一、二百四十六～二百四十九、  
二百六十一～二百六十五 監本 存六本
- 又 存目錄卷七～二十一、六十八～七十二、一百～一百十一、  
一百二十五～一百二十八、一百三十三～一百三十七、一百五  
十四～一百五十七、一百七十三～一百七十六、一百八十五～  
一百八十九、二百零四、二百零六～二百零八、二百十四～二  
百二十八、二百四十二～二百四十四、二百六十一～二百六十  
五、三百八十九～四百三十一至(?)卷四百四十八、四百四  
十九～四百五十四、四百七十六～四百八十二、又二百十六～  
二百十七、三百八十七～三百九十五 又卷八十五～八十八、  
九十四～九十九、四百三十二～四百三十七、四百七十～四百  
八十二 監本 存三十六本
- 又 存百二十九～百三十二、二百二十一～二百二十四、四百零  
二～四百十二 存四本
- 又 存卷一～四十七 五十八～九十七 十行本 存八本
- 又 存卷一～四十七、六十九～七十八 十行本 存六本
- 又 存卷一～十一、二十五～三十六、五十八～九十七 十行本  
存五本
- 又 存卷一～四十四、六十三～七十 十行本 存四本
- 又 存紀二十四～三十、表一～八、伝一～三十一、志十～十四、  
十八～三十一 十行本 存二十本
- 又 存卷一～九、二十一～三十二、四十二～七十、八十～百十  
六 北監本 存九本
- 又 存卷一～九、二十一～五十一、四十六～五十一 北監本  
存六本
- 又 存卷一～二十、九十三～百零四 北監本 存三本
- 又 存卷十一～二十、七十一～九十二 北監本 白紙印 存三  
本
- 又 存四本
- 金史 存目錄不全、本紀三～四、七～十九、志卷一有缺 又志  
三～九、十三～三十九、表一～四、伝一～三、八～十二、十  
六～三十二、三十七～四十九、五十一～五十六(此六卷內篇  
帙不齊)、五十九～六十九、七十二、七十三 明写本 存四  
十
- 四本
- 又 存目錄全、本紀卷三、志卷五、六、八、十六～十七、二十  
～二十七、三十～三十一、三十三、三十四、三十六～三十八、

- 伝巻十、十三～十四、十七～十八、二十～二十二、三十一～  
 三十五、三十九～四十一、四十六、四十八～四十九、五十一  
 ～五十三、五十九～六十二、六十六～六十七、七十、七十二  
 ～七十三 明初杭州刻本 存四十本  
 又 存目錄上、本紀五、表一～三、十五～十六、二十五～二十  
 八、三十六～三十八、四十一、四十九～五十 同上本 存三  
 十三本  
 又 存本紀七～九、十～十三、表一～二、志四～六、十五～十  
 九、二十三～二十六、三十四～三十六、伝十～十二、十八～  
 二十五、二十九～三十五、三十九～四十一、四十五～四十七、  
 五十一～五十八、又四十五～四十七、五十五～五十八 杭州  
 刻本 後印 存十八本  
 又 存卷二十四～四十一、四十八～五十三、五十九～六十八、  
 八十三～八十八、五十五～九十九、一百、一百零四 監本  
 存  
 九本  
 又 存卷一～七、四十八～五十八、九十五～一百二十五、一百  
 二十二～一百三十五 白紙印 存十本  
 又 存卷四十～四十四、一百二十三～一百二十八、六十三～七  
 十一、九十一～九十二 存大・小本  
 又 存一～一百零九、一百十六～一百二十一、一百二十九～一  
 百三十四 監本 存二十二本  
 又 存一～三、二十四～四十一、四十八～五十三、五十九～六  
 十八、八十三～八十八、九十五～百零四 又二十九～三十五  
 存十一本  
 元史 缺本紀三十五～三十八、志十～十一、三十七～三十八、  
 表六卷上下、伝二十一～二十三、七十一～七十三 明写本  
 存  
 七十二本  
 又 存目錄本紀五～九、二十一～三十五、四十一～四十七、志  
 四～五、八～十一、二十七～二十九、五十二～五十三、表卷  
 六上下、伝十六～十七、二十一～二十二、三十七～三十八、  
 五十五、五十六、六十九～八十一、九十～九十七 写本 存  
 二十九本  
 又 存本紀二十八～三十一、志一～二、五～十二、二十六～二  
 十八、四十四～四十九、表一～六、伝一～五、十三～十六、  
 二十一～二十四、二十八～三十一、三十六～八十一、九十五  
 ～九十七 刻本 存二十四本

又 重複 一包不計本

又 存目錄、本紀十七、十九、志一、三上、七、十、二十二、

二十五、二十八、三十、三十六、三十八、四十二、五十、

表一、六、伝一、十二、五十、五十六、六十七、七十 存十

七本

又 存紀三十五、四十三、志九、十一、十七下、二十、三十六

、三十九、四十二、四十四、五十、五十三、伝二十六、三十三、

三十七、四十 印本甚大與前同版 存九本

又 存十六、十九、三十四、三十五、四十三、六十四、六十七

、七十。七十、八十三、八十六、八十八、九十六、一百一十

監本 存四十本

又 存四、六、十一、十七、二十一、四十一、四十七、八十五

、八十八、一百十四、一百二十一、百二十九、百三十四、百

四十二、百五十四、百六十一、百七十五、百八十七、二百零

四、又五十九、六十八、七十四、七十八 存十八本

又 存四十八、五十、六十、六十二、七十一、七十六、九十六

、九十七、一百零二、一百零四、一百零六、一百二十八、一

百三十、一百三十七、一百四十一、一百四十四、一百六十一

、一百六十四、一百九十四、二百零四、又一百十四、一百十

九 存十七本

又 存一、十一、十七、二十一、四十一、四十七、一百十四、

一百二十一、一百二十九、一百三十九、一百四十二、一百五

十四、一百六十一、一百七十八、一百八十七、二百零三 嘉

靖十年刻本 存十三本

又 存十六、十九、三十四、三十五、四十三、六十五、六十七

、七十、七十、八十三、八十六、八十八、九十六、百二十、

百二十、百八十八、百九十四、二百一十 監本 存四十本

明史 存二十八、三十二、三十五、六十八、八十四、九十九、

百零九、百十二、百三十、百三十八、百六十七、百七十一、

百七十七、百八十、百九十六、二百一、二百五、二百七、二

百十七、二百十四、二百十八、二百二十三、二百三十一、二

百四十、二百六十五、二百八十、二百八十九、二百九十四、

二百九十八、三百十四、三百十七、三百二十一 殿版 存五

十四本 又 存一、十九、二十五、六十八、七十二、百二十一、百二十

六、百五十八、百六十三、百七十一、百七十五、百八十、百

八十四、百八十六、百九十三、二百二十三、二百二十七、二

百四十九、二百五十三、二百五十五、二百六十一、二百八十、

二百八十六～三百二十九 殿版 存九十六本

又 存五十一本

又 原稿本 存六十本

又 存一百三本

又 歷志稿本 存十六本

史書 存唐一後漢二 元史一 隋一 通鑑前篇一 金書一 魏

一 存七本

以上正史類一百四十部共存二千四百九十九本

資治通鑑二百九十卷 宋司馬光撰 宋刻無注本 存二十本

又 同上本 存三本

謹案此書有札部評驗書畫閔防長方印 又有解物人沈盛沈茂名

名下各有押當是宋時官物

音注資治通鑑 元胡三省注 存九十一、三十四、三十六、四

十一、四十四、六十二、六十四、七十八、八十、又八十九、

百二十一、百二十七、百四十一、百四十八、百五十四、百五

十六、百五十九、百六十二、百八十一、百八十四、百八十九

、百九十一、二百七、二百八、二百二十九、二百三十五、二

百五十三、二百五十六、二百五十九、二百六十、又二百七十

九、又複四十一、四十四、六十一、六十三、百二十一、百二

十二、百八十九、百九十一、二百五十五、二百五十六 元刊  
本 雜配 存十二本

又 存六十一、六十三、八十二、八十四、九十七、九十九、百

九、十一、百二十七、百二十九、百四十、百四十一、百四十

五、百四十七、百五十一、百五十四、百七十二、百七十四、

百七十八、百八十、百八十七、百八十九、百九十二、百九

五、二百三、二百四、二百四十一、二百四十三、二百五十七

、二百五十九、二百六十六、二百七十一、又二百七十四、二

百八十一、二百八十二、二百九十三、二百九十四 存十本

又 存二十五、二十六、又五十一、百一、百二、百六、百八、

百十九、百四十二、百四十四、又二百十二、又二百八十四、

附 積文誤一本第一、六 存十本

又 同上本 存十一本

又 存四十、四十二、九十五、九十七、百二十二、百二十四、

百二十八、百三十、百六十七、百六十九 有批 存五本

又 存七本

又 存百六十、百六十二、百八十四、百八十五、二百十九、二

百二十一 存二十六本

又 二包 附計本

陸狀元集百家注通鑑詳節一百二十卷 宋陸唐老編 存志首三

十一、四十七、八十、又複二十三、三十、又六十七、七十一  
存八本

少微通鑑節要五十卷 宋江摯撰 存卷十一、十八、十八、二十

九、二十二、三十、三十三、三十四、四十、五十五、四十三、  
五十、四十四、三十 大小雜本 存八本

又存二、四、十二、十五、二十七、三十一、三十六、四十一、  
四十五、四十七、附統編

又存卷八、十三、又五、二十六、複卷八、十

通鑑詳節 存首三十一、四十七、八十、複二十三、三十、六

十七、七十 存八本

又存卷一、十、又三十一、四十、六十一、七十、八十、百、  
百十一、百二十

又存首三十一、六十七、八十 存二本  
又存五本

又存一、二十、十九、四十、又三十五、四十一、又四十、四

十七、又四十五、四十八、又四十五、五十九 存六本

又存四本

綱目書法五十九卷 明劉友益撰 存三、六、十九、三十四、五

十三、五十九、又四十九、五十九 存五本

綱目集覽五十九卷 明王幼學撰 存一、十四、二十九、五十九、  
又一、五、四十一、五十九、又四十三、五十九 存五本

又 十二本

宋史全文統資治通鑑三十六卷 存卷五、七、十、十二、二十、

二十一、二十五、二十六、二十九、三十一 存五本

又存卷三、八 存一本

宋鑑 即宋史全文附季朝事實 存六、八、二十三、三十六 存

五本

又存五、八 十四、十八 存二本

又存一本

通鑑節要統編三十卷 張光啓撰 存十六、十七、二十一、二十

九 元刊本 存八本

謹案此書有永年伯章及王棟之印 又欽賜書籍大方印乃昭端皇

后兄家藏書欽賜書籍蓋賜由神宗也

又存十一、十五 存一本

通鑑統編二十四卷 又題曰遼金史 明陳樞撰 存六本

又存七本

以上編年類五十五部共存五百五十七本

通鑑紀事本末四十三卷 宋袁樞撰 刻本 存十本

又抄本 存七本

又存十二本

又存十二本

又紅皮本 存十二本

又存二十三本

又存十本

又存十四本

又存二十四本

又存十本

又存十一本

又存卷三、四、十、十一、十七、十九、二十六、二十七、三十、三十四、四十一、四十三 黃綾蝶裝 宋本 存十四本

又存八本

又存二本

又存十二本

宋史紀事本末二十六卷 明陳邦瞻撰 存卷四、五、七、十二、

十五、十九 明刊本 存十四本

又存卷二、七、二十七、二十八、三十 存十一本

唐鑑二十四卷 宋范祖禹撰 存一本

欽定歷代紀事年表一百卷 康熙五十一年奉勅撰 存卷七、二十

一、二十七、三十一、三十五、九十七 刻本 存二十七本

歷代臣鑑三十七卷 缺卷三十、三十三 存九本

謹案宣德自序錄奉春秋迄元代人臣事略分法善成惡二類

相鑑 存十二本

平定三逆方略 存八本

以上紀事類二十五部共存三百零八本

明實錄 抄本 存二百三十七本

太祖二十二本 卷一、十三、叙南都事卷二十五、二百五十七、

自洪武元年二月起至三十五年閏五月止叙太祖事蹟

太宗二十二本 卷十、十五、自洪武三十五年七月起至十二月

止

宣宗十四本 宣德元年正月至七年六月、八年五月至十年十二

月

英宗十五本 正統元年正月至十四年十一月

景帝六本 景泰元年五月至二年十月、三年六月至五年六月

英宗八本 天順元年正月至八年正月

憲宗二十九本 自天順八年正月至成化二十三年八月

孝宗二十三本 自成化二十三年八月至宏治四年三月、五年正月  
至十四年閏七月、十六年九月至十八年五月

武宗二十一本 自宏治十八年五月至正德五年十二月、六年四  
月至十一年九月、十三年六月至十六年六月

世宗二十本 自正德十六年七月至嘉靖元年十二月、嘉靖五年  
正月至十二月、七年正月至九月、十二月、十一年正月至十二  
月、十六年正月至十二月、二十七年正月至二十八年十二月、

三十二年正月至十二月、三十五年正月至十二月、三十八年正  
月至十二月、四十年正月至四十二年十二月

穆宗四本 自隆慶二年正月至六月、四年正月至六月、五年七  
月至十二月、六年五月至十二月

神宗四十七本 自萬曆元年正月至十年十二月 十本 十一年  
正月至二十年十二月 十本 二十一年正月至二十七年十二月、  
二十九年正月至三十年十二月 九本 三十一年正月至四十年  
十二月 十本 四十一年正月至四十八年七月 八本 附光宗  
一本

熹宗十二本 自泰昌元年九月至天啓三年十二月、天啓五年正  
月至七年七月 十二本 複 弘治五年五月至九月、天啓五年  
正月至十二月 共三本

謹案有明一代除建文崇禎二朝原無實錄外此所存計缺永樂一朝  
以汲古閣書目攷之有四十冊不知庫中有無殘也聞日本圖書館有  
明實錄全部惟缺太祖一朝為能就彼抄補殘缺便可成完書

以上別史類一部 共存二百三十七本

太祖下六世 卷一存十九頁 卷二十二存十二頁 七世 卷二存  
十一頁不全 卷二十二存十五頁 卷二十六存五頁不全 卷三  
十存十七頁不全 卷四十五存十九頁

太宗下六世 卷四存七頁不全 卷六存十三頁 卷二十一存十六  
頁 卷三十九存十八頁 卷四十一存十四頁 不知卷數存十五

頁半不全 卷五十六存十六頁 七世 不知卷數存十二頁不全  
卷二十七存十五頁 不知卷數存八頁不全 卷四十四存十二頁

卷五十存十八頁 卷六十二存十一頁不全 卷五十六存十四頁  
半不全 卷九十八存二十二頁半 卷一百存十八頁 卷百十一  
存十八頁 卷百十四存十六頁 卷百二十二存十七頁 卷百二  
十五存十二頁 卷百三十一存十七頁不全 卷百三十八存七頁  
半不全 卷百四十存十六頁 卷百三十一存十七頁不全 卷百

三十八存七頁半不全 卷百四十存十六頁  
南宋寫本宗藩慶系錄 不知卷數 存二十一本

太宗下六世 卷四存十一頁 七世 卷十三存九頁 卷十七存

九頁 太宗下六世 卷二十存十頁 七世 卷十八存三頁不全  
卷十九存八頁 卷二十三存九頁 卷二十七存七頁 卷二十八  
存九頁 卷三十存十頁 卷三十四存八頁 卷三十九存八頁  
魏王下卷七存九頁 卷二十二存八頁 卷二十三存八頁 卷三  
十五存八頁 卷三十六存七頁

以上二書共存五十一本計六百零三頁

謹案二書當一人所編為歷來著錄家所未見宋史藝文志亦不載宋  
世系表稱有宋宗室有譜有牒有籍此二書當一為譜一為錄錄分太  
祖太宗魏王三大支祇載子嗣□稱譜分太宗二支兼載子女世卒年  
月其中又有六世七世之別每世卷數又自為起訖以原存卷數考之  
當有數百卷今二書所存五十一卷而已譜存六世卷首載史浩奉勅  
編一行浩封衛國公當在淳熙朝对高孝光三朝當稱諡今卷中與高  
宗名同發貼黃作今上御名高宗譜內又作太上皇帝又或作孝宗  
皇帝光宗皇帝或又稱孝宗為今上皇帝稱光宗為今上皇帝蓋譜錄  
均南渡後勅修至史浩時始至命就原本編定或已貼改或漏未更正  
耳又裝定不知出何人手以□題作宋宗藩慶系錄宋仙源類譜不稱  
皇宗疑非宋代所裝然不可考矣以較宋史世系表史中訛誤百出閣  
中有元初宋史刻本惜無暇取以讎校也

八旗滿州氏族通譜 存五十九本

又 存二十一本  
又 存四十本  
又 存三十六本

以上譜牒類二部共存二百零六本

三朝聖訓 存十本

世宗聖訓 存十八本

又 八本

聖祖聖訓 存四十本

聖祖仁皇帝政治典訓一百卷 雍正年間勅撰 抄本 存九十九本

缺一本

謹案此書與列朝聖訓体例略同其初蓋名為 典訓不知何以撰而

不用

高宗純皇帝聖訓三百卷 存卷一、三、五、十三、十六、十七、

十九、二十一、二十四、一百 刻本 存九十五本

硃批諭旨 都存二千六百八本

一部 缺末函石麟下一本 存一百一十一本

又 同上 存一百一十一本

又 缺末六本 存一百六本

又 同上 存一百六本





- 百四十一、又三十四、三十七 元印本 存十四本  
 又 存三十五、三十八、四十二、五十二、九十、九十四、百一  
 百三、百八、百十、百二十二、百二十九、百四十五、百四  
 十八 宋刻本 存十本  
 又 存一、十、二十三、三十、九十七、百四、百十五、百十九、  
 百二十六、百三十、又一、八 存六本  
 又 存六十五、七十一、百三十九、百四十四 存二本  
 歷代名臣奏議三百五十卷 明永樂中撰 存二百六十、二百六十  
 二、二百六十五、二百七十、二百七十六、二百七十八 明刻  
 本 存五本  
 陸宣公奏議 存四本  
 又 存四本  
 烈女傳 漢劉向撰 存卷一、三、又複卷一 存三本  
 百將傳 宋張預撰 存六本  
 昭忠祠列傳 二十六本  
 又續集 四十四本  
 又 九十本  
 又 列傳 四十四本  
 又 列傳 四十一本
- 又 列傳 二十七本  
 又 列傳 八十一本  
 又 初集 三十本  
 又 集 五十三本  
 明名臣言行錄 前集六卷後集四卷 存二本  
 天聰名臣伝録 存二本  
 以上伝記類十三部共存四百四十九本  
 周簡肅公奏議 存一本  
 順治元年吏戶札三部章奏 存五本  
 以上詔令奏議類五十五部共存三千三十二本  
 通鑑總類二十卷 缺七、八、十八、十九 存十六本  
 又 缺三、四、十五、二十、複四、五、十、十一  
 又 存五本  
 又 存一、五、又九、二十二、又十五、十六、十八、十九  
 又 存四本  
 又 存五本  
 又 存七本  
 又 存三、六、九、末 存八本  
 又 存一、三、五、十一、又十四

十七史詳節 宋呂祖謙撰 存史記二本全、東漢二本不全、三國

一本不全、北史二本、南史二本均不全、隋書二本全、複北史

一本 存十二本

又 存西漢一本、東漢一本、唐一本 存三本

又 存西漢一本、東漢一本、南史一本、北史二本 存五本

十七史策要 存二十五本

十八史略 存二本

史學稽古不知卷數 存四〇十二、十八〇二十八、三十八〇五十

五

謹案原書無首卷本數以子丑寅卯十二字為次計缺四冊

讀史管見 存四本

又 不訂本

函史 存二十本

荆川史纂左編 存四十三〇五十八、又四十五、四十九〇五十、

五十四〇五十五、五十七〇六十四、六十九〇七十、七十二〇

七十五、七十七〇七十八、八十一〇八十五、八十七、九十七

〇九十八、百六〇百七、百十一、百十八、百二十一〇百二十

四、百三十〇百三十四、又百一〇百二、百九〇百十一、百十

三〇百十四 存四十二本

太平寰宇記二百卷 宋樂史撰 原缺卷四、百十三〇百十九、今

存卷一〇三、五〇二十四、四十〇五十七、八十九〇九十五、

百三〇百十二、百二十〇百三十二、百四十三〇百四十八、又

百五十七、百七十二〇二百、重五十二〇五十五 明經廠本

存

十九本

明一統志九十卷 存八〇三十五、三十八〇五十五、五十九〇六

十六、六十九〇八十七 明李賢等奉勅撰 存三十二本

又 二十九本

又 存二十二〇二十四、二十六〇三十四、又三十七、四十七〇

七十一、七十四〇七十八、八十一〇八十二、八十五、八十九

〇九十二 二十五本

寰宇通志百十九卷 明陳循等修 存三十二本

皇輿表十六卷 存二部 各二十三本

大清一統志 缺卷首、卷一〇二、二十八〇三十、三十七、七十

一〇七三、九十一〇九十八、百十二、百十三、百三十六〇百

三十七、百五十七〇百五十九、百七十二〇百七十四、百八十

七〇百八十九、二百五〇二百七、二百二十一〇二百二十三、

二百三十五、二百六十〇二百六十二、二百七十四〇二百七十

六、二百九十、二百九十二、三百四、三百五、三百二十九、三百三十 存八十七本

大清一統志 直隸二十四、河南二十四、山東八、陝西十八、甘肅十二、四川十九、雲南八、貴州十六、廣東十五、廣西十二、

江南三十、江西十八、湖南十二、湖北十六、福建十二、浙江十五、缺山西

又 稿本 存三百二十本

又 刻訂本 存四十二本

又 鈔本 存百三十本

又 □ 存百十九本

又 紅格抄本 存十七本

又 鈔本 存六十五本

又 草稿 存百四十一本

又 稿本 存四十本

又 稿本 存二十四本

又 存三十七本

又 存山東十四、又五、雲南四、浙江五、廣西六、河南六 鈔

本 存四十本

又 鈔本 存七十四本

又 存二十五本  
又 草稿本 存十七本

又 草稿本 存七十八本

又 刻本不全 存八十七本

讀史方輿紀要二百卷 國朝顧祖禹撰 缺三本 原稿本 允恭手

批 存九十七本

欽定方輿路程攷略 存直隸三本、陝西二十二本、河南二十一本、

浙江七本、安徽一本、福建五本、廣西九本、廣東七本、湖南

十四本、四川三本 存九十二本

金陵新志 元張鉉撰 存卷一、二、四、五、十四、十五 鈔

本 存四本

又 存四、十五 刻本 存六本

又 存一、二、四、六、十三下 存四本

閩都記 存四本

莊浪彙記 存五本

御製盛京賦 後漢□文 存三十二本

畿輔通志 存六十九本

又 存二十八本

又 存六十九本

江南通志 存九十八本

山西通志 存九十九本

河南通志 存十四本

浙江通志 存九十九本

又 存九十九本

広東通志 存四十四本

雲南通志 存三十二本

又 存三十一本

四川通志 存四十八本

江西通志 存四十本

天和山志 存三本

以上地理類四十六部共存二千七百四十五本

明会典百八十卷 宏治十年撰 刻本 存百二十一本

又 存三十二本

又 三十七本

又 二十一本

又 二百二十卷 存序例、卷三、十四、十六、五十六、五十八

、五十九、六十一、八十七、百一、百九、百十二、百十三、

百十六、百四十七、百五十五、二百二十八

大明集礼 存八本

又 存七本

明典故紀聞十六卷 明余維登撰 存三、十四、十七、十八 刻

本 存八本

明世法録 存五本

吾学編 明鄭曉編 存八本

大清会典 存卷一、三、十三、六十、六十四、八十四、八十七

、

九十五、九十九、百四、百八、百三十五、百三十七、百三十

八、百四十二、百四十六、百五十一、百六十二 存五十三本

又 存首、十九、二十四、二十七、二十九、三十、三十一、三十

九、四十四、四十六、五十一、五十三、五十五、五十九、六

十一、六十二、六十四、六十六、七十一、七十六、八十一、

八十六、九〇、百、百三、百〇、百十五、百七十一、百三十

七、百三十五、百四十六、百四十八、百五十一、百五十五、

百六十二 存百零四本

又 缺序目、四十二、四十三、二百三十四、二百三十五 存九

十五本

又 存戸部十六本、祭祀行礼图十四本、兵部一本、刑部八本、

工部九本、盛京（戸礼刑工）部各一本、理藩院七本、都察院一本、通政図一本、大理寺一本、内務府二十三本、翰林院一本、起居注一本、詹事府一本、東天府一本、太僕寺一本、中書科一本、欽天監五本、太医院一本、侍衛処一本、八旗都統五本、歩軍統領一本、護軍營一本、前鋒營一本、建銳營一本、大器營一本、円明園護軍營一本、嚮導処一本、虎槍營一本

本 存百二十一本

大清会典則例 缺卷二、十四、十七、四十、五十四、五十六、六十六、六十七、七十一、七十四、七十六、七十七、八十七

九十、九十三、百十二、百二十二、百二十三、百二十四、百四十七、百四十八、百五十三、百五十五、百五十九、百六十、百六十五、百六十七、百六十九、百七十、百七十五、百七十六、百八十 存六十九本

大清会典事例 存吏部十三本、戸部九十本、礼部十三本、兵部百二十七、刑部十三本、工部六十四本、盛京（戸礼兵刑）部各一本、理藩院二十八本、都察院十六本、通政目一本、大理寺一本、内務府二十三本、翰林院四本、起居注一本、詹事府

一本、太常寺十八本、順天府二本、奉天府一本、太僕寺一本、鴻臚寺三本、国子監一本、欽天監一本、太医院一本、鑾儀衛三本、侍衛処二本、八旗都統三十五本、歩軍統領四本、火器營一本、建銳營一本、護軍統領二本、前鋒統領一本、円明園護軍營一本、嚮導処一本、三旗虎槍營一本 進呈写本 存四百八十三本

又 存二百八十七本

又 存百八十一本

大清会典 缺卷八十 存百三十九本

会典則例 存百二十本

大清会典図 存七十四本

幸魯盛典 存十本

科場条例 存一本

工程做法 存五十本

八旗通志二百五十卷 雍正五年奉勅撰 缺卷十、十一、又二百二十、二百二十三 存六十七本

又 存六十七本

又 白紙印 存四十三本

又 毛太紙印 存四十三本

八旗通志 缺卷一、二十五、五十、六十四、八十三、百四十、

百八十八、百九十 写本 存百四十九本

又 写本 存二十三本

又 目錄全三冊、志二百四十五本 写本 存二百四十八本

中枢政攷 存十六本

兵部处分則例 存三十一本

工部軍器則例 存二十三本

唐律義疏三十卷 唐長孫無忌等奉勅撰 刻本 存四本

通制條格 元時官撰 存卷二十七、三十 元写本 存一本

謹案此書四庫存目止二十三卷疑誤

大清律集解附例 律存首、十八、二十、三十、總類存一、五

治河奏牘二十四卷 国朝張鵬翮撰 存二十三本

謹案此書不画東議先生事略称所著為聖謨全書今書首無名不知

何故

山東塩法志 存七本

長蘆塩法志 存八本

明向淮塩法志 存五本

福建賦役全書 存一、六 存八十二本

又 存八十二本

又 存八十四本

又 存七十本

胡廣賦役全書 百三十八本

江西賦役全書 九十二本

廣東賦役全書 百一本

康熙晴雨錄 存十九本

以上政書第一類四十九部共存三千三百八十五本

通志二百卷 宋鄭樵撰 存百五、百二十六、百二十九、百三

十二、百四十一、百六十四、百七十八、二百、重百六十五、百

六十七、百七十一、百七十七 存三十九本

又 存一、四十、四十二、四十四、八十九、九十三、九十五、

九十六、九十八、百九、百十二、百二十八、百三十、百三十

二、百三十五、二百 存百五十四本

又 存一、四、五下、六下、十、十下、十二、十五下、十六、

十九、二十一、二十三、三十一、三十八、五十一、六十二、

六十五、七十四、七十七、八十、八十二、八十五、八十九、

九十一、九十三、百二、百七、百十一、百十二、百十五、百

十六、百十八、百二十九、百三十、百三十七、百三十八、百

五十八、百六十、百六十一、百六十三、百七十、百七十二、

百七十六、百七十八、百八十、百八十四、百八十六、百九十二、百九十三、百九十四、百九十五、百九十六、百九十七、百九十八、百九十九、二百

百十四、二百五十六、二百七十七、二百八十三、二百九十五、三百六、三百十四、存三十三本

又 存一、五上、六上、十、十二、十五上、十七、十八、二十

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

五、二十七、三十一、三十五、五十一、五十二、五十五、五十七、六十七、六十八、七十七、七十九、八十、八十三、八十四、八十六、八十七、八十九、九十四、九十八、九十九、

百五十二、二百五十二、百六十五、百六十七、三百二十五、三百二十八、二百二十九、百五十六、百五十九、二百二十五、二百三十三、二百三十二、二百二十五、百八十一、百八十六、

百二十一、百七、百九、百十三、百十七、百十八、百二十二、

七十七、八十一、九十五、九十六、二百三十一、二百三十六、

百二十三、百二十六、百二十七、百三十一、百三十六、百三十八、百四十五、百四十七、百五十八、百六十、百六十二、

二百三十、二百三十一、二百九十二、二百九十六、二百七十四、二百七十七、二百八十六、二百九十一、二百七十、二百

百六十九、百七十四、百八十一、百八十三、百八十六、百八十八、百九十六、百九十九、二百 存四十八本

七十五、二百七十六、二百七十九、二百二十七、二百三十二、二百五十四、二百五十八、二百六十五、二百六十九、百五十六、百五十九、百四十五、百五十、百三十九、百四十四、六

又 存四十二本

十六、六十八、七十三、七十八、十三、十七、三十五、三十七、四十八、五十二、五十七、六十五、百八十二、百九十、百十五、百十七、六十一、六十四、七十四、七十六、百、百

通典 缺卷八、十三、二十九、四十三、六十六、七十二、八十五、八十七、百二十五、百二十九、百六十一、百七十、百八十一、百八十四、鈔本 存二十八本

二、百六、百六、百十一、百十二、百十七、三百八、三百十一、二百四十四、二百四十六、二百九十五、二百九十八、五十四、五十七、二百八十九、二百九十一、百三、百五、百七十八、百七十一、百七十三、百八十、百八十七、二百七、二

文獻通攷 缺卷一、九、十四、二十四、三十二、三十四、四十四、四十六、五十三、五十七、六十四、六十七、七十五、七十九、百十一、百二十七、百三十三、百三十八、百四十五、百六十三、百七十、百七十三、百八十、百八十七、二百七、二

百十五、百十七、六十一、六十四、七十四、七十六、百、百二、百六、百六、百十一、百十二、百十七、三百八、三百十一、二百四十四、二百四十六、二百九十五、二百九十八、五十四、五十七、二百八十九、二百九十一、百三、百五、百七十八、百七十一、百七十三、百八十、百八十七、二百七、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

通典 缺卷八、十三、二十九、四十三、六十六、七十二、八十五、八十七、百二十五、百二十九、百六十一、百七十、百八十一、百八十四、鈔本 存二十八本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

文獻通攷 缺卷一、九、十四、二十四、三十二、三十四、四十四、四十六、五十三、五十七、六十四、六十七、七十五、七十九、百十一、百二十七、百三十三、百三十八、百四十五、百六十三、百七十、百七十三、百八十、百八十七、二百七、二

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二

又 存四十二本

又 存九、十二、八十、八十二、三百四十一、三百四十四、二



- 百八十八、三百三十三、三百三十六、百六十二、百六十四、  
 七十一、七十三、四十八、五十、百九十一、百九十五、三百  
 十八、三百二十一、百五十八、百六十一、二百七十、二百七  
 十三、二百四十七、二百五十四、二百五十六 存六十七本  
 又 二百三十四、二百四十、七十九、八十四、九十七、三百、  
 百一、百六、百十二、百二十八、百三十五、百四十六 存九  
 本  
 又 存十本  
 又、卷七十九、八十一、九十七、九十九、百九十、百九十三、  
 百三十一、百三十六、百、百十九、百二十五、百二十七、百  
 四十九、百五十一、百九十四、百九十八、二百二、二百五、  
 百八十三、百八十九、百四十六、百四十八、百七十九、百八  
 十二、二百七十八、二百七十九、二百二十一、二百二十四、  
 二百六、二百九、二百四十六、二百四十九、二百七十五、二  
 百七十七、二百七十二、二百七十四、二百六十七、二百六十  
 八、二百五十九、二百六十一、二百三十二、二百三十四、二  
 百四十三、二百四十五、二百三十五、二百三十八、二百六十  
 五、二百六十六、二百六十九、二百七十一、二百八十、二百  
 八十二、二百十三、二百十六、二百十七、二百二十、二百二  
 十九、二百三十二、二百五十三、二百五十四、二百五十七、  
 二百五十八、百九十九、二百一 存四十本  
 又 存十二本  
 又 存百二十八本  
 又 存八十一本  
 又 卷二十五、二十七、二十八、三十、三十一、五十五、五十  
 八、六十、六十六、六十七、七十一、七十六、九十七、九十  
 九、百三、百五、百十五、百十七、百二十八、百三十一、百  
 三十六、百四十五、二百七十四、二百七十七、二百九十五、  
 二百九十八、三百三、三百十四 存二十八本  
 又 存九本  
 又 存十本  
 通典詳節 殘、複 存四本  
 以上 以上政書第二類十八部共存八百七十三本  
 類十九部共存百九十八本  
 總共史類四百二十八部一葉四千五百二本  
 子類  
 說苑二十卷 漢劉向撰 存卷一、十三 明初刊本 存三本  
 又 存卷五、一二 存二本

- 又 存二本  
 又 存二本  
 又 存卷首、四、一七、二十 存二本  
 朱子語類大全一百四十卷 宋黎靖德編 存卷一、二、四、六、九、十、十二、十五、二十二、二十六、三十四、三十八、四十、末 存十八本  
 又 存卷一、六、十五、三十五、四十四、六十一、八十三、九十 存八本  
 朱子成書 存六本  
 文公經世大訓 宋楊簡撰 缺末本 存五本  
 顏子 元徐大左輯 存卷五、七 存一本  
 大學衍義四十三卷 宋真德秀撰 缺卷三十七 元小字刻本配一本仍缺 存五本  
 又 存七本  
 又 存四本  
 又 存三本  
 又 存卷六、二十四  
 又 存八本  
 又 存十一本
- 又 存卷二十二、二十六、三十一、三十四、又卷四十三 存三本  
 大學衍義補一百六十卷 明邱濬撰 刻本 存十七本  
 又 存十五本  
 又 存十三本  
 又 存九本  
 讀書記六十一卷 宋真德秀撰 存卷四十五、又卷八 宋刊大字本 存三本  
 闡範四卷 明呂坤撰 存一本  
 性理大全七十卷 明胡広奉勅撰 缺二本 存四十八本  
 五倫書 缺卷六、二十四、五十一  
 又 存五十三本  
 又 存五十八本  
 又 存六本  
 黃氏日抄 宋黃震撰 不計本  
 自警編九卷 宋趙善瑛撰 缺第三本 存四本  
 又 缺第三本 存四本  
 伝習録 存前三卷 存二卷  
 朱子為学攷三卷 存卷二、三 存二本

以上儒家類 部 共存 本

武經魏要四十卷 存前集卷一、六、又一、二、六、九、後集卷

五、十、十三、十七 抄本

以上兵家類 一部 共存六本

大德重校聖濟總錄二百卷 宋政和中奉勅撰 存卷一下、二中、

十七、十九、二十、六十一、六十二、六十五、六十六、七十

一、八十三、八十四、九十三、九十九、百、百二十三、百二

十四、百二十七、百三十、百三十七、百三十八、百五十、百

五十一、百五十四、百五十五、百五十八、百六十、百六十三、

百六十四、百八十四、百八十六、百九十 宋刻本 存共六本

普濟方一百六十八卷 明周定王朱□撰 存卷三十一、三十四、

四十五、四十九、五十二、五十八、六十三、七十二、八十、

八十二、八十四、八十七、八十八、百二、百四、百十六、百

四十 周府初印本 前有印施記文半頁 存十六本

回回藥方 鈔本 存四本

纂圖類方馬經 存卷五、七 存一本

以上医家類 五部 共存 本

古今律曆考七十二卷 明邢雲路撰 存卷一、十六、二十二、二

十五 存九本

新法算書一百卷 明徐光啓等撰 存五十四本

西域曆法通徑 不詳卷數 存卷十一、十四、二十三、二十四

抄

本 存四本

統歷會集元龜 不詳卷數 抄本 存一本

御製數理情蘊 缺卷六、十 存二十八本

算清全能集 篇頁不全 存八本

以上曆算類 六部 共存 本

焦氏易林十六卷 漢焦贛撰 存卷三、四、七、十、又十三、共

七卷 旧刻本 存四本

大統通古 存卷五、六、十一、又十五、十六、又三十六、四十

一 存八本

命書 存甲命九十七本、乙命五十三本、丙命五十一本、丁命一

本、戊命四十八本、己命一本、庚命六十六本、辛命四十八本、

壬命四十五本、癸命無 抄本 存八本

以上術數類 三部 共存 本

欽定授時通攷七十八卷 乾隆二年勅撰 缺卷五十二、五十三

內府刊本 存二十一本

又

以上農家類 一部 共存二十一本

宣和博古圖 宋大觀中勅撰 元刊本 存一本

以上譜錄類 一部 共存一本

為善陰騭 存前五卷 存一本

容齋隨筆 存四筆五筆各一本 存二本

說郭一百二十卷 明陶宗儀編 存卷三、四、二十三、三十二

旧

抄本 存五本

謹案此書世俗刻本不完備此旧抄本書名持校現行書目錄多未刻

者雖係殘帙亦甚可貴

以上雜家類 二部 共存七本

雲笈七籤一百二十卷 宋張君房撰 清志館刻本 存十四本

上清雲宝大成全書四十卷 不詳撰人 缺第三卷 刻本 存四十

本

五燈会元二十卷 宋釈普濟撰 存卷一、三、五、十九、二十

抄

本 存六本

又 存卷五、十八 宋刻本 存七本

大明三藏法數 存卷三、五 抄本 存四本

神僧伝九卷 缺第五卷 存四本

法苑珠林一万(ママ)卷 唐釈通世撰 存目錄、卷一、八、十

一、十九、二十三、三十、三十三、三十九、四十六、五十三、

五十七、六十、六十五、六十七、七十一、七十八、八十七、

一百 明写本 存二十一本

普庵語録 存卷一、三 刻本 存二本

禅林類聚 釈道泰撰 存卷十三、十四 存一本

景祐太一福心經集要十卷 僧景祐中勅撰 存卷一、五 宋抄本

存一本

宗門武庫 存一卷

繙訳名義 存一卷

圓悟禅師碧巖集 存一本

大慧禅師年譜 存一本

以上道釈家類 部共存 本

藝文類聚一百卷 唐歐陽詢奉勅撰 存目錄卷一、四、一、十

六、二十一、二十六、七十二、八十一、三百四、三百十三、

五百二十六、五百三十五、五百五十六、五百六十六、六百二

十九、六百三十八、七百七、七百二十、七百七十三、七百八

十四、八百三、八百十二、八百四十七、八百六十二、八百八

十四〇九百四十五 宋抄本 存十九本

又 存卷二十一〇二百七十、七十二〇八百二十 宋刻本 存三

十五本

冊府元龜一千卷 宋王欽若奉勅撰 存甲三十六〇四十三、六十

九〇七十二、八十五〇九十、乙目錄上下全 又十六〇二十八

宋刻本 存六本

又 存卷四十一〇四十五、五十六〇六十、二百七十一〇二百七

十五、二百九十一〇二百九十五、二百八十六〇二百九十、三

百四十一〇三百四十五、三百五十六〇三百七十五、三百八十

六〇三百九十、三百九十六〇四百、四百十一〇四百十五、四

百五十六〇四百六十、四百七十一〇四百七十五、四百九十一

〇四百九十五、四百八十六〇四百九十 宋刻本 晉府藏書

存十七本

事文類聚一百七十卷 宋朱謨撰 前後集不全 晉府藏書 存三

十八本

又 統集 缺卷一〇十一、十二、二十一、二十二、二十七〇四

十三

又 存百三十四本

又 存二十三本

山堂攷索 宋張如愚撰 存前集七本後集十四本統集十一本別集

四本、複湊成書 存三十六本

又 存四本

又 存四本

又 存三本

又 前後別統四集 存三十六本

玉海二百卷附詞學指南四卷又書十三種 宋王應麟撰 存卷一〇

二十五、三十六〇四十、四十三〇五十二、五十五〇六十、六

十四〇九十二、九十五〇九十八、百七〇百九、百十一〇百十

九、百三十四〇百三十九、百五十五〇百五十九、百七十三〇

百七十七、百七十八以下缺、附書存十種不全、又複卷十、十

一、十四、十五、五十九〇六十、六十八〇六十九、八十一〇

八十二、百七、百九、百十三、百十四、百四十八僅存數頁、

百五十一、百五十二、百五十八、百五十九、百七十一、百七

十二、百七十六、百七十七 元刊初印本 存六十八本

又 存五十八本

又 存二十七本

又 存五本

又 小字本 存首〇卷二、六〇八、十二〇十六、十九〇二十三、

三十七、四十七、五十二、五十九、六十五、七十二、七十五、八十七、九十二、九十六、百、百二十二、百三十、百四十二、百九十六、百九十九、又詞學指南存卷三、四、又附種不全 存四十二本

又 小字本 存十七本

又 小字本 存卷二、三、十、十二、二十二、二十九、三十二

、三十六、四十、四十八、五十四、五十五、五十七、五十八、

七十九、八十、八十三、九十二、百、百十一、百十五、百

十六、百二十、百二十一、百五十三、百五十四、百六十七、

百六十八、百七十三、百七十六、百七十九、百八十、百八

十六、百八十七、百九十八、二百一、又二百四 存三十四本

又 存卷百六十三、百六十八、百七十五、百七十八、百八十五

、百九十六、百九十五、百九十六、通鑑地理通釈存卷一、十

一、周書王會全、漢制攷存卷一、四、踐祚篇全、急就篇存卷

一、二、姓氏急就篇全 小学紺綬存卷九、十 存二十本

又 存卷十八、二十三、二十六、二十九、四十、四十一、四十

七、六十五、七十四、七十五、七十八、七十九、九十三、九

十六、百、百二、百十、百十一、百二十三、百三十六、百三

十八、百五十五、百五十六、百六十五、百六十六、百七十一、

百九十一、百九十三上、漢藝文志考証存卷三、六、姓氏急就篇存卷上 存三十一本

又 存卷二十三、四十二、四十六、四十七、六十三、六十五、

六十九、七十六、九十、百、百七、百二十三、百三十三、百

六十二、百六十五、百七十、百七十二、百七十七、百八十三、

百八十八、百九十九、通鑑地理通釈存卷十九、二十四、六經

天文編全、通鑑答問存卷四、五、詩攷全、急就篇全、漢藝文

志考証全、詩地理考全、漢制攷存卷一、四 存二十九本

天中記六十卷 明陳耀文撰 存卷三、八、十、十二、十四、十

六、十九、二十二、二十六、二十八、三十二、三十五、四十、

四十二、四十四、四十五、五十、五十二、五十三以下全缺

存

三十五本

万姓通譜百四十六卷 明凌迪知撰 存三十八本

以上類書類 二十四部 共七百三十五本

### 集類

李太白集三十卷 唐李白撰 存卷一、二、六、九、十二、十三

朝鮮刊本 存五本

纂注分類杜詩三十六卷 唐杜甫撰 存卷三、五、九、十一、十

三、十五、十七、十九、二十一、三十六 朝鮮刊本 存十七  
本

杜工部詩集 存無注一本、卷十三、二十、存千家注二本、卷六  
、十、又六、十四 雜存三本

陸宣公集 唐陸贄撰 存卷二、六、九、十、存三本

以上唐入集 部 共存 本

范文正公集 宋范仲淹撰 存年表東議及文集不全 存六本

又 存卷一、三、五、七、又一、又四、五、十七、二十 元刊

本 存五本

元豐類稿五十卷 宋曾鞏撰 存卷三後下卷部 存七本

周濂溪集 宋周子撰 存卷一、二、又七 存四本

伊川擊壤集二十卷 宋邵雍撰 存卷六、十 存一本

又 小本不全 小字本 存八本

又 小字本 湊配 存總目年譜、又集存卷十、五十、五十五、

六十五、七十、七十五、七十九、八十五、九十三、九十五、

百二、百八、百十三、百十四、百十七、百二十三、百三十一

、百三十五、百四十、百四十二、百四十七、百五十三、附錄

全文又重四本 存二十七本

又 存年譜目錄全外集卷五、十七（內十二、十五抄配）、內制

集

卷六、八、東議卷十六、十八、河東使上下全、河北東使卷上、

濮議卷二、四、崇文總目序錄全、書簡卷三存二頁、卷五存二

頁、卷八、十、卷存十頁 宋刻本 蝶裝 有批 存十四本

謹案此本不知何人所批与下十九本圖式疑此為過批上有籤写古

詩無批及直叙事無批字樣

又 存卷十一、二十四 兩部 存二本

廬陵文集 存卷一、九、三十六、五十 明刊本 陳斐校勘 晉

府藏書 存二本

又 存卷四十、五十、九十七、百十、百五十、百五十三 宋刻

本有補版 晉府藏書 存四本

歐陽文忠公集百五十三卷 宋歐陽修撰 存卷五十一、六十五、

七十一、七十五（以上外集）、卷七十六、八十九（內易童子

問

三卷外制集三卷內制集不全、卷百二、百十四（以上東議）、

卷百十五、百四十三附錄五卷（以上河東東草于役志婦田錄詩

話筆洗試筆近侍樂府集古錄全） 宋刻本蝶裝有批 存十九本

又 存卷二十、二十四、四十六、五十、五十一、七十五、九十

五、九十六、百二、百十三、百十七、百二十七、百三十四、

百三十七、百四十一、百四十二、百四十四、百四十六 宋刻  
本元印有批 存二十一本

謹案此書批与前二部同而刻本微異年譜末有刪改処

居士集攷異五十卷 存卷十一、三十 存二本

歐陽文集即居士集 存卷一、二十二、三十二、五十 旧鈔本

晋府藏書 存五本

范忠宣集二十五卷 宋范純仁撰 存 存三本

王荆川(ママ)集一百卷 宋王安石撰 不計本

篇頁散乱未及清查

王氏集注東坡詩二十五卷 宋蘇軾撰 王十朋注 存卷一又三、

十五、十九、二十、二十三、二十五、又二十四、二十五 宋

刻本 存六本

又 存卷三、十五 又卷八 存四本

蘇文中公集一百十五卷 存卷一、四、十一、十六、五十二、六

十七、七十一、八十八、八十五、八十七、九十一、九十三、

九十七、百四 存二十二本

蘇頌濱集 宋蘇轍撰 存八本

三蘇文集 存卷一、十六、卷至五十三 元刻本 存四本

三蘇文選評注 存卷一、三、六、八 詹惟脩注 存四本

三蘇文 不計本  
坡仙集 存卷二 存一本

晦庵集百十二卷 宋朱子撰 存卷一、十、又十二、十四、十六、

十八、十九、二十一、四十四、四十六、四十七、四十九、六

十一、六十四、九十六、九十九、百十二 存九十本

又 存卷二、六、又十二、十四、十六、又十八、二十二、二十

七、二十九、三十一、三十八、四十一、四十三、四十四、五

十二、五十四、六十、六十八、七十五、七十七、八十六、八

十八、九十一、百十二 存四十八本

又 重卷十六、十七、二十一、四十四、四十七、四十八、五十

三、五十九、八十一、缺卷三十八、三十九、五十五、六十三

、六十五、六十九、七十 存三十七本

又 存卷一、二十八、五十六、末 存十二本

又 存四本

又 存四本

又 存卷一、二十八、五十六、末

又 存四本

又 存四本

共七本(？)(刻)



- 又 存卷二十九、三十三、三十八、四十一、八十六、九十三、  
九十五、又三十三、三十五、三十六 存十五本
- 朱子大全集附別集五卷 存卷一、四、九、四十三、四十九、六  
十、六十九、七十二、七十五、八十一、八十四、九十、九  
五、九十七、百一、末、又別集全 存二十八本
- 又 缺序目、又缺八十、八十九 福建刊本 存二十五本
- 又 缺卷二、三、八、九、十四 存二十一本
- 又 抄本 存十三本
- 文公全集 存卷一、四、十三、十八、三十三、三十四、五十一  
、五十三、六十、六十一、六十四、末 存十四本
- 朱子全書 存十本
- 又 存八本
- 又 存八本
- 又 存八本
- 又 存卷一、十四 存六本
- 又 存十一本
- 二程集十三卷 宋胡安國編 存明道集八卷 宋刊本 存二本
- 真西山文集 宋真德秀撰 存三本
- 梅溪先生集五十四卷 宋王十朋撰 存前集卷一、四、十一、二
- 十、後集目錄兩部、又卷八、十五 紹熙刊本 存六本
- 後村居士集五十卷 宋劉克莊撰 存卷十九、二十五、又四十、  
五十、又重二本 宋刊本 存五本
- 文文山集 宋文天祥撰 存卷二、六、又八、末 存六本
- 又 詩集 存前三卷 存一本
- 以上宋人集 部共存 本
- 魯齋全書 元許衡撰 存卷三 存一本
- 秋澗集一百卷 元王恽撰 存卷一、七、十四、十九、二十六、  
三十一、三十九、四十四、五十七、六十三、六十六、七十三、  
七十九、八十四 刻本 存八本
- 謹案此書世謂無刊本誤惟刊本不易得此殘帙頗可貴惜麻沙太多  
耳
- 道園類稿五十卷 元虞集撰 存卷一、二十、二十五、二十七、  
三十七、四十三、四十七、五十 元刊本 存八本
- 謹案此書有字古錄及遺稿兩種所未載且係元刊甚足寶貴……
- 黃文獻公文集二十三卷 元黃潛撰 存卷一、三、十二、十五
- 明危素刊 存二本
- 知常先雲山集 元釈姬翼撰 存抄本卷三、四、刻本卷三、四、  
五 存五本

以上元人集 部共存 本

明太祖御製集二十卷 存卷一、十三、又十六、十八、又二十

鈔

本 存十九本

明宣宗御製集 未詳卷數 存目錄卷一、二、九、十二、十六、

十八、三十二、四十三 存八本

宋學士集三十六卷 明宋濂撰 存卷六、八 刻本 存一本

清江貝助教文集三十一卷 明貝瓊撰 存一本

蘇平仲集十六卷 存卷九、十六 存二本

楊東里集二十五卷 明楊士奇撰 存卷一、四 存一本

升庵文集八十一卷 明楊慎撰 存五本

蒼霞集一百十八卷 明葉向高撰 存本

鵠灣集 明譚元春撰 存卷六、七 存一本

歇庵集 明陶聖齡撰 存卷九、十二 存二本

以上明人集 部共存 本

御製詩集 存十六本

紺寒亭文集 存五本

劉文烈集 存四本

學庵類稿 未裝本

鬱麓樵詩文 存三本

趙清猷集 存卷七、十六、又重一冊 存三本

梓溪文鈔 缺外集卷九、十 存十本

以上國朝人集 部共存 本

六臣注文選 梁昭明太子撰 宋刻本 存十三本

謹案此書刻本頗精惟非尤氏本殘篇頁中有尤氏刻本數卷較此更

佳惜太散亂

又 存十本

又 存三本

又 存十二本

又 不計本

文苑英華一千卷 蒼李昉奉勅編 存卷六百一、七百 宋刻初印

本 存十本

謹案此書裝池後有景定三年某月某日背裝臣某人一行某月日安

本不同有——等印確為宋本無疑是內閣藏書之冠

文章世宗統集二十卷 宋真德秀編 存前四卷 存二本

文鑑百五十卷 宋呂祖謙奉勅撰 明後印本 存六本

又 存目錄中二、九、三十三、三十五、三十九、四十一、七十

一、七十三、八十七、九十三、九十八、百五、百八、百十二、

百十六～百十九、百三十四～百四十三、百四十六～百四十八

以上詩文総集 部共存 本

宋刊本 存十七本

又 存卷一～五、三十、三十五、五十～五十七、六十六～九十

九、百八～百二十一、百二十九～百五十 明弘治刊本 存十

二本

又 存 明刊本 存二本

蘇門六君子粹七十卷 不詳編輯人 存卷十五～三十五、五十四

～五十九 鈔本 存二本

唐詩鼓吹十卷 存卷五～七 存一本

十三家唐人集 存卷五～七 存五本

皇華集 不詳編輯人 朝鮮刊本 存五本

謹案此書所録皆出使人送行詩未詳伍人編輯

羣英詩伝 存一本

文章類選 存十七本

又 存十三本

箋注古文真宝 存一本

明文翼運 存二十本

文体明辨 存三十一本

明四大家文鈔 存四本

本論文は、平成二十三年度科学研究費補助金・特別推進研究・課題番号二〇〇〇一〇〇一「清朝宮廷演劇文化の研究（代表者：磯部彰）」の成果である。